

IGF 2023に向けた国内IGF活動活発化チーム

第17回会合議事録

1. 会合の概要

日時： 2022年4月18日(月)17:00～20:00

会場： オンライン

主催： 一般社団法人日本インターネットプロバイダー協会(JAIPA)

一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター(JPNIC)

参加者数： 17名

参加者一覧（五十音順・敬称略）：

飯田	陽一	総務省
Kashiwazaki	Hiroki	近畿大学
加藤	幹之	MK Next
上村	圭介	大東文化大学
河内	淳子	一般財団法人国際経済連携推進センター
実積	寿也	中央大学
柴田	輝之	総務省
Suga	Yuji	株式会社インターネットイニシアティブ
田中	和彦	一般財団法人日本ITU協会
八田	真行	MIAU
浜田	忠久	JCAFE
堀田	博文	JPRS
本田	聖	個人参加
前村	昌紀	JPNIC
森口	友里	株式会社インターリンク
森下	大	総務省
山崎	信	JPNIC

司会進行： 本田 聖

議事録案作成： 山崎 信(JPNIC)

2. 発言録

【本田】早速、始めていきたいと思います。

私、今回、司会を立候補というか、したら、どうでしょうかということで、御提案をして、皆さんが特に異議もなかったので、私が、まず、やらせていただこうと、今回、暫定的にやらせていただこうというところであります。本田聖と申します。

特に所属は出していないんですけれども、ITサービスベンダーで、IT企画というか、サービスデスク周りの改善などを、本業のなりわいとしております。

時間が一応2時間ということなんですけど、いつも足りなくなりますので、早速始めていきたいと思います。

資料もう少しズームインしていただけますか。

【山崎】はい。

【本田】ほかの環境、モバイルから入られている方もいらっしゃるかもしれませんので、もう少しズームインをお願いします。

このアジェンダは、事前にMLのほうで、約1週間前を基本にお渡しをしていますが、私のほうで、追加資料を準備しますと言ったのに、土日、プライベートのほう、家族の事情がありましてといったこともあり、うまくできなかったのも、まずは、本日は、その部分については、組織化の部分については、後ほどになりますが、口頭で御説明をさせていただこうと思います。

アジェンダとしましては、ここに書いてあるとおり、目的確認ですね。ここに書かれているような……。

【前村】すみません、本田さん。前村ですけれども、今……。もしもし。

【本田】どうぞ。

【前村】組織化とおっしゃったんですけど、組織化議論に関しては、私が組織化と何うと、法人化に向けたいろいろな営みのことだと思ったんですけど、それとは違う何かをおっしゃっています？

【本田】細かいハンドリングの事務的なところというよりも、私たちがなぜやるのかというところの大きな方向づけのところ。そして、エンゲージメントと……。ユースも含めたエンゲージメントと全体的なといったことです。後ほどお話しするので、そのときに、お話しさせてください。

【前村】分かりました。

【本田】前村さんのパートを取ろうとしているわけではないです。

【前村】いえ、いえ、そういうことは思っていないんですけれども、言葉は、違う言葉を使っていたかかないと、混乱するなと思いました。差し出がましいながら、失礼しました。

【本田】ああ、まあ、まあ、はい、ごめんなさい。組織化というよりも、何て言うんですか、全体的な目的意識、グループ活性化チーム全体の今後の方向性についての大枠での提案とか、そういうたたき台、

素案というような、そういう理解です。よろしいでしょうか。よろしいでしょうか。

【前村】承知しました。はい。

【本田】はい。

資料提出のほうですが、これはリンクを踏むと、チャットに貼っていただけませんか。このアジェンダと、あと、それぞれのところですか。そうすれば、皆さん、ここから直接踏んで、御覧になれると思いますので、よろしく願います。アジェンダ案、ありがとうございます。

投稿しているというふうに書いてありますので、山崎さんが投稿はしてくださっていますが、好きなタイミングで、好きなところは、御自身でチェックしていただくことはできると思います。

設立趣意書案、組織化案、定款案というところで、今日は具体的な御提案もいただいている次第です。下、願います。

今、述べたように、ユースとかですね、組織枠組みの素案について……。失礼しました、私のほうですね。大枠の枠組み、フレームワークのところ。

そして、最後に、チーム会合、今回やっているこの会合ですが、運営方法について、加藤さん、加藤さんじゃない、ごめんなさい。お名前をまた忘れてしまいました。御提案がありましたので、その話も少し触れたいと、盛りだくさんの内容になっています。

では、山崎さん、いつもの前回のブリーフィングを簡単にお願います。

【山崎】山崎でございます。

まずは、前回の振り返りでございます。

実際の順番とは、異なりますけれども、いつもやっている順番のほうが分かりやすいと思いますので、それでいきます。

IGF 2023ホスト、イコール政府です。日本政府から、飯田さんに、検討状況の御報告をいただきました。エキスパートグループというものが、IGFで設立されたので、遠隔で参加する予定ということで、前回と今回の間に開催されたと思います。ですので、ひょっとしたら、本日、御報告をいただけるかもしれません。その中身が、2番目のポチです。

3番目、4番目は、参考までに、こういう感じ、状況ということをお報告いただきました。

MAGメンバーということにつきましては、河内さん、御欠席のため、割愛となっております。

その次に、秋イベントですけれども、プログラム委員会の守備範囲について、提案を資料として作成する予定ということが、先ほど、本田さんがおっしゃっていたことの一部なのかなと思っております。

その次に、プログラム委員会の状況ということで、このように立候補をいただいて、プログラム委員会が始まっているということで、3月17日に、プログラム委員会会合を開催して、秋会合の全体像を検討して、こんな感じということです。大枠についての結論は得られていないということでした。

プログラム委員会の上のレベル、このチームレベルで、活発化チームレベルで、結論が必要とする事項ということで、ここに列挙されております。

特に名称とテーマです。それを受けて、参加者からのコメントがあり、全体テーマについては、プログラム委員会から、候補の掲示がありました。それにいろいろと御意見が出ております。

最終的には、プログラム委員会で、テーマについては、案を出しているのです、次回会合ということは、今日です。今日、決めることになるのか、ではないかというコメントが、上村さんから出ています。

もう一つの重要なポイントである会合名については、前村のほうから、案を幾つか考えて、メーリングリストで議論ということで、それは、メーリングリストに送られていると思います。

その次に、組織化の議論についてですけれども、定款の記載事項について、前村より説明しております。それについて、御覧のようなコメントが出たということになります。

宿題の進捗確認ということで、議事録案は、なかなか、進みが遅いですが、第14回までは公開しております。

15回、16回は、皆さんの間では、回覧をしている。公開は、ラストコールが済んでからということになります。ですので、15回までは、もうすぐ公開できると思います。

16回については、ラストコールが入りますので、でも、もう公開できる時期にはなっていると思います。先ほどのことと重複しますが、本田さんのToDoが、1つあるという状況です。

ごめんなさい、宿題の進捗確認は、前回の確認ではなかった。次の項目でした。

ですから、前回の16回の振り返りについては以上です。

【本田】ありがとうございました。

前回の状況等、また、その後の変化等もありますけれども、この部分について、何か御意見とか、もしくは、これは何でしたっけ?とか、もしくは、ここのところをプライオリティーを上げてくださいとか、何かそういう御意見等々がありましたら、今日は人数もあるので、一応、手を挙げるという機能を使っただけであればいいかなと思います。

もしくは、チャットに書いていただいても構いません、チャット欄は送信先を全員とすると、今、上村先生が書かれているように、全員に来ます。「全体テーマは、今日確定するのでしょうか」という御質問ですが、確定させれば、確定するというような答えだと思んですが、確定させるために、今日、時間を取りたいと思います。蒸し返しが起こらないように、頑張りましょう。

特になければ、一つだけ、スポットしたいと思います。その下を少しめくってください。組織化のところをめくってください。

上村先生が言われていた、Japan IGF、IGF-Japan、IGCJを清算するかを記載すべきと書かれました。これは、確かに重要な視点です。

Japan IGFは、これは、どっちかというと、商業界のほうから来たものですね。

IGF Japanのほうは、何か分かりづらいので、何か分かりづらいな、本当に分かりづらいなと思うんですが、プロバイダー協会の発端のように理解をしています。

IGCJというのは、あくまでユーザーグループに近いもので、別に何かを決めるというよりも、IGFって、

日本でどうすんだよな、どうしたらいいんだ、考えていこうぜということで、みんなで言いたい放題、言っていた時期もあったのですが、ここに皆さん入っていた人が、一応、こちらの活発化チームに来ていたという嫌いもありますが、結局、IGCJのほうから、明確にこの活発化チームに移りましょうということをやったわけでもないし、別個の組織とはなっているという認識でいます。

これを、確かに清算するかとか、清算するべきなのかどうか含めてですね……。ただ、Japan IGF、IGF-Japanで、入れ子になっている。これは、ちょっとやめてほしいなと思うんですが、やめてほしいなというのは、紛らわしいなと思うんですが、それも含めて……。

【前村】本田さん、よろしいでしょうか。

【本田】はい。

【前村】組織化に関して、ここの1行なんですけど、上村さんの御指摘はごもっともだろうと思います。それぞれに運営する人たちが少しずつ違いますので、その人たちがどういうふうに清算していくかということを考えなければいけないので、ただ、それをきちんと落とし前をつけていきたいと思います。これは、非常に必要なことだと思いますので。

ただ、すみません、先週の木曜日にお送りした私のドキュメントの中では、これが抜けていますので、今後の改訂作業で、盛り込んでいければと思います。

上村さん、御指摘どうもありがとうございました。前回のことなんですけれども、ありがとうございました。

【本田】上村さんは、今日は、チャット参加でしょうか。

【上村】いや、違います。必要なときにはしゃべります。

【本田】はい。何かコメントがあれば、特にはよろしいですか。

では、飯田さん、いつも5分という枠で、短過ぎるかもしれませんが、多少超過しても構いませんので、お話しただけででしょうか。

日本政府として、IGF 2023に向けたホスト対応、もしくは、検討状況、そのほか、もろもろ、グローバルとのつながり、日本国内もしくは他省庁、広い視点で、お話を聞かせていただければと思います。

【飯田】ありがとうございます。今日、実は、事前に、御報告する内容があんまりたくさんないので、30秒で終わりますと言ったばかりだったんです。

省の中の検討というのは、なかなか進んでいないんですが、そろそろ、夏の人事異動も近づいてくるので、本格的に考えて、皆さんとの連携をしっかりとできるようにしていかなければいけないと思っています。

次回、少しでもお話しできるようにしたいと思うんですけれども、この時期、国際会議が多くて、対応にいろいろ振り回されております。

ただ、先ほどお話に出ました、前回お話を差し上げたエキスパートグループは、結局、私は、遠隔で、一応、可能な限りは出たんですが、何しろ夜の12時から朝の6時までみたいな時間帯だったので、半分

もカバーできませんで、後になって、少しキャッチアップしたりしているところです。

全体的な印象として、ニューヨークに集まった人たちは、IGFの有効性というか、その強化ということについて、その政策決定へのインパクトみたいなことを非常に重視してしまっていて、それは、長年の課題ではあると思うんですけども、その一つの出口として、政府の政策フォーラム、例えば、G7やG20などというところに、どうインパクトを与えるかみたいなことをしきりに話している方が多かったような印象でした。

部分的にしか聞けていないことと、こちらの受け止めがそうだっただけかもしれないんですが、もちろん、いろいろな側面があるので、それ以外のことも、3日間、かなりみっちり話し込まれていたようで、彼らは、取りあえずは、今年、アジスアベバが念頭にありますけれども、そのあと、日本でどうするかということも含めて、事務局で議論してみたいと思っているところです。

例えば、私、違和感ということはないんですけど、若干、不思議な感じがしたことは、実は、G7やG20などは、私、大分長年やっているんですが、そこで議論して決まったことも、すぐに各国の政策に反映されるかという、そういうものでもなくて、非常にソフトな大きな方向性や共通理解を共有しているレベルなので、IGFとそこのインタラクションが取れることが、そんなに目標になるのかなということは、逆に、若干、懐疑的だったんです。

ただ、一方で、もし、みんながそういうことを期待しているのであれば、何か考えてもいいかなと思っ
ているということは、前からお話ししているとおり、来年、日本はG7もホストしますので、何かこの
間で、キャッチボールみたいなことができれば、そのインパクトやインタラクションがあったというふ
うになってくるんでしょう。

実際には、アジェンダは、非常に共通というか、IGFには全て入っていますので、その中で、G7やG20
で何にフォーカスが当たったかということ、うまく両方の場で見せていけばよくて、最終的には、そ
のディスカッションが何かに結びついていかないと、本当のインパクトとは言えないと思います。そう
いう意味では、少し長い目で……。

一番難しいことは、今年のアジスアベバで、どういう前振りができるのかということ。それを、来
年の取組に結びつけ、また、そこで終わるものではないと思うので、24年、25年というふうに、形がだ
んだん具体的に政策になったり、必ずしもその政策というよりは、インターネット・エコノミーの中で、
何か形になっていったりということが大事だろうと思いますので、そういうふうな道筋を描きながら、
議論を進めていければいいのかなという印象を持ったところです。非常に漠然とした印象なので、また、
もう少し具体的にお話しできればと思っています。

昨年、年度末に突貫工事をお願いをした委託調査は、立派な報告書を納めていただきまして、ありがと
うございました。皆さんにも、御協力いただいた方は多いと思うんですけども、我々も全体像をつか
む材料として、非常に貴重だと思っ
てしまっていて、ありがたく思っ
ています。

ぜひ、これをみんなで使って、来年に向けての作業の材料にできればと思っていますので、これは、ま

た、私どもも勉強しながら、皆さんと共有して、一緒に議論の対象にしていきたいと思っています。簡単ですけれども、以上になります。

【本田】大変いろいろ示唆に富む全体の動き、グローバルでの動きをありがとうございました。飯田さんに対して、どなたか、何かコメントとか御質問、おありでしょうか。あれば、直接、手短にお尋ねになってください。特にはよろしいでしょうか。

【加藤】飯田さん、加藤ですけど、一つ、よろしいでしょうか。

【飯田】もちろんです。

【加藤】ありがとうございました。

先ほどのG7との関係なんですけれども、スケジュール的に、まだちょっと早いので、今年の動きから、これから考えられるのかもしれないですけど、G7で、デジタル関係を扱うといたしますか、IGFとかぶる分野のテーマの方向性みたいなものは、どんなスケジュールで決まっていくんでしょうか。

日本がホスト国として、ある程度、主導権を持って、いろいろ取りまとめをされると思うんですけど、その場合に、どういう感じで決めていくのか。そのタイミングとの関係で、やはり、先ほど言われたように、IGFとうまく連動できればいいなという。どちらが先なのかということも、もちろんありますけれども、その辺のお考えはいかがですか。

【飯田】G7自体、まだ報道で、ちらっとサミットがどうなるかなどと出たぐらいかと思うんですけども、あれも、まだ最終決定ではないと思います。

で、実は、どの分野の閣僚会合をやるかは、まだ決まっていません。なので、デジタルがあるか、ないかも、実は決まっていないです。ただ、常識的に考えて、ないとは思えないと思って、行動しています。アジェンダをどうしていくかということになると、複数の省庁も絡んでいまして、かつ、毎年の流れもありますので、我々だけで勝手に決められないんですが、今年のドイツで何をやっているかということ、あるいは去年からの流れなどを見ると、データフローの関係とか、安全性、通常、デジタルエコノミーの安全性あるいはデータの安全性などと言ってしまうんですけど、要するに、インターネットの安全性です。

今、一番大きな流れとして、やはりディスインフォメーションとか、フェイクニュースとかです。これも、安全性の一部といえば、そうかもしれないんですが、ちょっと政治化しているところもあるんで、さらに、もうちょっと行くと、報道の自由やリテラシーなどです。

あるいは、これは、いわゆるコンベンショナルなメディアだけではなくて、むしろ、目指す途上のメディアの表現の自由と信頼性のある情報のバランスなど、今、いろいろなことが、非常に議論になっていると思います。あと、インターネットのまさにフラグメンテーションです。この辺は外せない話題だと思っていますので、今年、どういう流れで議論されていって、アジスアベバで、どういう形の……。

IGFの場合、こういう成果が出ましたということは、なかなか難しいので、そこをうまくすくい取って、インプットしているんですということを、G7でうまく見せられるかという、そのテクニックのところも

あるかもしれないんですが、間違いなく、その辺は、話題としてカバーしなければいけないんだろうと思っていますし、日本のIGFでは、そういうところのフォーカスを強くハイライトしたいと思っているところです。

ですので、ぜひ、国内でも、そういうことに関心を持って、議論していただければありがたいと思います。

【加藤】ありがとうございます。

恐らく、そういうタイミングだとすると、アジスアベバに向けて、日本が何か少し情報発信をしながら、次にG7に結びつけていくみたいなトピックが、うまく出せるといいのかもしれないですね。

【飯田】そうですね。私、カレンダー、全部、頭に入っていないんですけど、ワークショップやオープンフォーラムなどの募集もあると思いますし……。

【加藤】ええ、今、もう動いていますね。

【飯田】そうですね。はい。

実は、フラグメンテーションのベストプラクティス・フォーラムというものは、もう立ち上がってしまっていて、イギリスか、どこかから誘われて、私も入ることはしているんですけども、皆さんも関心を持って見ていただいて、できれば、日本として、1個、オープンフォーラムなり、ワークショップなり、開催していただいて、ここで議論したテーマから、そういうところに発信をして、来年の大きなネタにしていくという流れができれば、一番効果的かなという。

【加藤】そういうことですね。

【飯田】はい。

【加藤】ありがとうございます。

【本田】どうもありがとうございました。

そのほかの方、いらっしゃいませんか。もう一人ぐらいいらっしゃれば、手短に。飯田さんも大変お忙しい方なので、この場でお聞きできることがあればと思います。

特にないようでしたら、私から一言コメントは、G7のほうにホストしていくということもあるようですので、そうすると、外務省などのハンドリングも、総合の窓口は、外務省で、デジタル部門については、デジタル部長とか、場合によって、総務省、通信は総務省などというふうに、すみ分けがあるんでしょうか。

そういった部分で、できるだけ、次のG7も、きっかけとしてですけども、発展的に政府全体、飯田さんだけでなく……。別に飯田さんが何かと言っているわけではないんですが、飯田さんだけでなく、より多角的に、つながれるように、まず、政府内のエンゲージメントをしていただきたいなというふうに思っていることは、個人的なところですが、その辺り、いかがでしょうか。

【飯田】ありがとうございました。

その辺は、我々も、どのくらいうまくできているかは、ともかくとして、いつも注意をしています。

一つ目は、ネガティブな意味で、変に足の引っ張り合いにならないようにとか、あるいは、取りこぼしがないようにという意味でも、各省の連携が非常に重要になっています。特にデジタルは、あらゆるところにも関わってきますので、中心は、デジタル庁と経産省と総務省の3省庁になります。

サミットなど、全体を見ているのが外務省ですので、閣僚レベルでやったことを、いかに首脳レベルに上げるかという意味での外務省との連携も非常に重要です。

あとは、個別の話題で、例えば、健康や交通やセキュリティーなどという、そのそれぞれの担当省庁との連携も必要になりますが、これは、個々のアジェンダにおいての連携になってくるので、全体のハンドリングというのは、先ほどの3省庁でやりながら、外務省と連携して、より大きな全体のパースペクティブの中で、テーマを決めていくという形になっていくと思います。

【本田】私たちの目指す方向性は、マルチステークホルダーというものが、最初に出てきていますので、今までですと、日本のやり方ですと、各種業界団体や圧力団体がそれぞれ個別に省庁にリーチして、議員とか、いろいろなところから来て、言いたい放題、言って、何か法律をつくらせていくというような、ややもすると、旧来のやり方をインターネットにも持ち込もうとしているような嫌い、現にそうなってしまった事例もありますよね。

そういったところも、可能性としては、恐れている部分もあるわけなので、インターネットガバナンスというのは、まず、このオープンなプラットフォームに、一個、来ていただいて、この土俵の上で、まず相撲をしていただいて、皆さんがよく関連に議論していただいて、その成果が国に反映され、それが世界へ持っていけるように、そして、日本からも、アジア、APAC代表としても、インターネットガバナンスに対して、強いインパクトを持たせるようにというようなことを考えておりますので、ぜひ、引き続き、御連携・御協力のほどよろしくお願ひしたいと思っております。ありがとうございました。

【飯田】お願ひします。

【本田】それで、チャットに、御挨拶をとということでいただいていたので、総務省の人事異動がありまして、データ通信課の森下様、柴田様、そのほか御参加の方もいれば、総務省の方から、顔を出していただいて構いません。お一言、どうぞ。

【柴田】総務省のデータ通信課の柴田でございます。すみません、ビデオの開始を押しても、できていないので、顔が出ていないです。4月1日に、データ通信課に着任いたしまして、白壁の後任として、着任しております。

すみません、インターネット関係は、先ほどから出ている諸課題がいろいろとありますけれども、それをどのような形で、こういう国際的な場において、取り扱って、進めていくのかということ、少しでも早く勉強して、キャッチアップできるようにしてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

【本田】ありがとうございます。

今日は、飯田さんのほかは、御参加は、お一人ですね。それとも、同じルームに、複数名、いらっしゃ

いますか。

【柴田】データ通信課は、私のほかに、森下が入っております。データ通信課、2名で入っております。

【本田】ありがとうございます。

今日は、今のところ、データ通信課のみの御参加ですね。はい、ありがとうございました。

では、山崎さん、元の資料に戻っていただきたいと思います。山崎さん。

【山崎】元というか……。

【本田】画面共有をお願いします。私が見えていないだけかな。

【山崎】画面共有されていますけど。

【本田】ピンを私が下手に設定してしまったから。もう1回、その共有画面をピンしていただけますか。

【山崎】ピンというものは、ローカルなので。

【本田】そうなんだ。これは、全体ではないんだ？

【山崎】はい。だから、本田さんがピンとおっしゃいますが、ほかの人には影響しないというものです
ね。

【本田】私が慣れていないのを、ばれてしまう。

分かりました。ありがとうございます。

では……。

【山崎】次は、MAG報告だと思います。

【本田】そうですね。

お願いします。今日はいらっしゃいますか。

【山崎】河内さん、いらっしゃいます？

【本田】河内さん。2回分ですけど、お願いします。

【河内】すみません。聞こえますでしょうか。

【本田】聞こえています。

【河内】前回は、都合で、参加できなくて、すみません。

一応、今日は、4月の5日と11日にMAGの会議があったので、その報告をさせていただければと思います。

チャットに、事務局から出ているまとめみたいなペーパーを翻訳して、載せましたので、その資料で御説明したいと思いますけど、画面……。やってもらってしまったほうが、早そうですね。

【本田】それはどこに送られました？全員に送られました？

【河内】これはアクセスできないですか。チャットに……。

【本田】チャット、全員に……。

【山崎】貼られています。だから……。

【本田】私のものが、おかしいだけかもしれない。はい、分かりました。

【山崎】ワードオンラインが表示できる環境なら、できると思います。

【河内】ああ、そうなんですね。普通に貼れ……。普通に、ま、いいです。OneDriveから貼ったので、分からないです。はい。

一応、5日のほうからです。メインのトピックは、上にまとまっていますけど、2つありまして、一つは、先ほど飯田さんがお話しされていましたEGMです。エキスパートグループ・ミーティングがニューヨークで3月末に行われたということで、それについての報告がありました。

今、その報告書を作成中で、それができたら、よく読むようにと言っていましたけれども、そこから先にといいますか、少し資料の下に行ってください、1番……。

【本田】すみません、EGMは何の略ですか。

【河内】エキスパートグループ・ミーティングです。エキスパート、専門家グループ会議みたいな……。大丈夫ですかね。

【本田】ありがとうございます。

【河内】そんなに下に行ってしまうなくて、もうちょっと上へ行ってもらって、1……。そうですね、あんまり細かく言ってもしょうがないので、ざっと行きます。

2番のポイントが、ここに幾つか並んでいますけれども、結構いろいろなことを話をしていたみたいで、EGMで議論された問題の幾つかは、以下のとおりと書いていますが、MAGの規約を見直すべきとか、やはり、IGFのセッションを、みんなが、企画なりを、もう少ししっかりやるようにするべきみたいなことは、結構言われていたと言っています。

ここには、これだけで、簡単に書いてあるわけなんですけど、多分、まだ、報告書は出ていない。メールでも来ていないし、ウェブも探したんですけど、まだ出ていないんじゃないかと思うので、また出たら、報告ができればと思います。

もう一つのほうが、重要なテーマだったんですけど、ずっと下に行ってください、2番です。セッションの提案の募集についてです。ワークショップのセッションの募集の内容についてとそのフォームについて、フォームをリバイスするというので、それについて、議論が行われました。

この翌週の次の11日の会合までに、その議論に基づいて、提案の募集内容とフォームの改訂をするということで、最後に、そういうふうになっています。

もう少し下に行ってください、細かく言いませんが、ここに書いてある、いろいろな意見が出たということです。

4月11日までに、それをまとめて、報告されて、承認されたら、先週中には募集を開始するというので、す。

続いて、11日ですけども、11日のほうも開けていただけますか。

やはり、この日のメインテーマは、セッション、提案の募集ということで、リバイスされた内容のものが説明されまして、MAGのメンバーから、特に異論はないということで、それで、承認されて、結局、

募集がその金曜日までで、水曜日か、木曜日に来ていたと思いますけど、今、募集は開始されています。もし、このワークショップをやるのであれば……。先ほど飯田さんがおっしゃっていたものは、これとは違うんですか。分からないんですけど、6月だったかな、ここに書いてあったかな、ここに書いていなかったかな。締切りがあって、もう締切りがウェブに載っていますけれども、6月の1日だったかな。そっちは、参加者とかは、関係ないです。

別のサイトに、このセッション提案の募集が載ってまして、そこに締切りが書いてあったんです。たしか6月1日だったと思いますので、もし御関心がある方は、それまでに提案をしないとイケないということになります。

ワーキンググループ・ストラテジーということで、少し下のほうに行ってください、2です。1は終わって、2です。行き過ぎ。すみません。

IGFの強化と戦略に関するワーキンググループということで、もう少し上へ行ってもらえますか。すみません、ちょっと今の……。そうですね。そこです。その辺です。

MAGとのコミュニケーション及び調整をさらに発展させるために、その会合から生まれた全てのアクションアイテムを、MAGのメーリングリストで直接共有するというので、どんなことをディスカッションしているのかということ、メーリングリストで共有することになりました。

この2つの文書を、2022年の活動計画と事務局の文書を……。これは、すみません、下に、リンクが……。注がついていますよね。下に、注……。多分、このリンクをクリックすると、行くと思うんですけど、行かないかな。行きましたね。

この2つの文書を公表してまして、事務局からのフィードバックを考慮しながら、これらの文書を完成させて、MAGと共有して、フィードバックを求めているということです。

何か専門家会合ですね。ワーキンググループが、IGFの専門家会合、エキスパートグループ・ミーティングですが、提出した寄稿文について、MAG全体がその文書にコメントをする機会がなかったということで、ワーキンググループでは、将来的にこのような問題がないようにしたいということになっています。

【本田】河内さん、すみません、せっかくなんですけれども、ちょっとお時間の兼ね合いもあるので、もう少し絞っていただけますか。

【河内】そうですね。でも、もうおしまいです。

ということで、4月の5日と11日に行われた会合については以上です。

次は、5月の何日かに会合があったと思うので、また、次回、もしそれに間に合えば、御報告できればと思います。

以上です。

【本田】ありがとうございました。

IGF関連、特にこのMAGというのは、御存じの方は、この中に、ほとんどいらっしゃいますが、いわゆ

るIGFを引っ張ってくださって、河内さんも日本代表、言わば日本の代表として、いただいておりますので、何か直接コメントとか、単純な確認等があれば、誰か、御発言、御発声いただければと思います。いかがでしょうか。

【山崎】山崎ですけれども、私は、手を挙げられないようなので、割り込んで、すみません。先ほど、河内さんから、IGFのワークショップ提案募集の締切りが6月ということは、今、出しておりますけれども、6月3日……。

【河内】6月3日でした？

【山崎】23時59分UTCが締切りだそうです。詳しくは、このページを見ていただければと思います。以上です。

【河内】すみません、私もなったばかりで、あんまりちゃんと分かっていないということ、バーチャルのミーティングはいいんですけど、やはり、いつも夜中の1時ぐらいからなので、中身にまだまだ溶け込んでいないところがありまして、来年に東京でやるまでには、中身をもっと理解して、ちゃんとできるようにになりたいと思うので、皆様に、また御協力、御示唆をいただければと思います。すみません。

【前村】前村です。

河内さん、どうもありがとうございます。MAGの話という感じがよく分かりました。

ワークショップの募集が始まっているということは、もしできるんだったら、この辺の活発化チームの周りにも、こういうふうなことで、何か提案をしていくようなことを考えなくてもいいのかなということ、少し検討をして、何が合理的にできる手だてなのかということを検討したほうがいいのではないかなとは思いました。

【河内】はい。

【前村】なので、これは、河内さんに申し上げているというよりは、チームの皆さんに、一応申し上げているんですけれども、私自身に、こうやろうという妙案があんまりないです。あれも、これも、あんまりできないなと思っているところはあるんですけど、そこを工夫して、何かやったほうがいいのかなと思います。

【本田】前村さんの今の御提案は、日本からも1個を出そうということですね。1個と言わず、出そうと。

【前村】そうですね。どなたか、もう既に考えていらっしゃるかもしれないですし、もっと何か出していこうかなという気分になってもいいのかもしれないと思います。

【本田】河内さんが、直接の情報を持っていらっしゃるわけだから、その辺は、日本は、有利なわけだから、日本語で、ある程度、素案をつくって、それを英語に直してもいいわけですし、ぜひ、河内さんを交えて、個別のセッションを開いてみるのはいかがでしょうか。

それは、別に公式でなくても、非公式なものでもいいので、緩い形で、何か組織化しないと、できないというものでもありませんので、有志という形でも構いませんので、ぜひ、それは、よい取組をしていただければいいのではないかと思います。ありがとうございます。

【前村】あまり時間を取っても、駄目なんですけど、もう一つ質問があるんですけど、すみません。

IGF2021のセッションを、くまなく隅から隅まで見るという仕事を、最近やったんですけど、そうすると、結構、マルチステークホルダーのフォーマットになっていないワークショップとか……。オープンフォーラムは、そういうことがあってもいいのかもしれないなと思ったんですけど、ワークショップに関しては、結構多かったなと思うんです。

その辺に関しては、2022に向けては、もう少し締めていかれるのか。その辺の問題意識みたいなものもあったんですか。

【河内】それは、あまり聞かなかったです。

【前村】そうですか。分かりました。

何かあんな感じ自由にやれるんだったら、それ……。

一つは、厳格にマルチステークホルダーでないと、提案が受け付けられないみたいなこともあった。昔は、そんな感じがしていたような気もするんです。ということは、最近は、緩いんですかねと思いました。

【河内】すみません、ちゃんと分かっていないですけど、と思います。

【前村】分かりました。ありがとうございます。

【河内】ステークホルダーについての議論はなかったのではないかと思います。

【前村】分かりました。ありがとうございます。

【本田】河内さん、どうもありがとうございました。

もし、できれば、定期会合を待たずに、随時、メールでも構いませんし、ぜひ、アップデート……。今回、ドキュメントを頂きましたので、このワードも含めて、ぜひ、河内さんからダイレクトにML投稿をしていただくと、皆さんのキャッチアップがよりスムーズになるのではないかと思います。どうもありがとうございました。

では、ここまでが、一応、予定では5分、10分で終わる話のことだったんですけど、そこは、大丈夫です。巻いていきますということです。

6番です。秋イベントについて、一応30分ということにはなっていますが、まず、全体です。最初に、推進体制／プログラム委員会の守備範囲についてというところなんです。その全体の組織、イベント関連の組織について、組織の立ち位置といったところの話と、実際にプログラム委員会、現行、始まっていますけれども、その中のさらに進め方のところについて……。

これは、あれですよ、細かいプログラム委員会の中身で議論すればいいことではなくて、本会合、今、会合しているチーム会合との委員会との関連性などということでしたよね。

上村先生、どうでしょうか。

【上村】そこは、本田さんが、議長ではなくて、一提案者として、御説明になるべきところだと思います。

【本田】そうですね。このところは、私の……。

【上村】以前から出ていることだと、例えば、プログラム委員会というのは、この間のものが立ち上がったときは、セッションの募集のところだけを割と狭くするというで、暫定的かもしれませんが、それでスタートしたわけです。

ただ、その後の、それ以外に広げるべきという話もあったわけですが、では、どこまで広げればいいのかというところは、明確でないの、例えば、ロジ的なこともありますし、それから、もうちょっとディレクター的な仕事を誰がするのかというあたりも、そのプログラム委員会にアサインするのか、それとも、ほかの委員をアサインするのかというところが、明確でないの。

この後、募集要項を見ていただいて、仮に最速でオーケーということになったとしても、これは、募集はかけられても、それを実現するための手だてがないと思うんです。なので、そこの議論を、本田さんに進めていただく必要があると思います。お願いします。

【本田】ありがとうございます。今のところで、全体の振り返りをさせていただきました。大変助かりました。ありがとうございます。

では、こうしましょうか。まず、5分ぐらい、私のほうから、私なりの本会合とプログラム委員会の進め方、プログラム委員会の大枠での推進体制というところについて、口頭で説明をさせていただこうかなと思います。これは、本来は紙にしておくべきことでしたが、事後的に、山崎さんの協力を得ながら、やりたいと思います。

そもそも、このチーム会合というのは、このイベントのためだけに存在しているものではないと思っています。もちろん、そうなんです、要は、日本のIGF活動全体をどうしましょうかという、2023に向けてどうしましょうかというところなので、イベントは、あくまで、目的のための手段という、一つのきっかけにすぎないと考えています。

きっかけというのは、どういうことかという、このイベントをやるということが……。今、ちょうどよく、堀田さんのものを出していただいて……。今日は、たしか、堀田さんは、お休みでしたよね。だから、頂いたんですけども、これは、あくまで火付け役というか、花火大会みたいなものなので、実際に宣伝したいことは、IGFのインターネットガバナンス、みんなでやろうよ、インターネットガバナンスという感じですよ。

そこのところについて、皆さんに周知をするためなので、なるべく多くの方に来てもらわないといけない。来てもらうためには、それなりにメインディッシュを用意しなければいけないし、これは、メインディッシュとなるようなものでないと、駄目ですね。みんなが、おう、来たいと思えるようなものでないと。

何かこう、いかにも最初から込み入っていて、小難しいこととか、問題としては分かるけど、ちょっと面倒くさいなというようなことよりも、夢を描くような話のほうがいいなとは思っているわけです。

堀田さんのこの資料、書いていただいた紙のところを見ていただくと、プログラム委員会というのは、

あくまでプログラムをつくり込んでいくところ、プラス、つくり込むというのは、前回はつくり込むということはしなくて、ただ、来たものの審査をしますというところだけだったんですけど、あとは、イベントチームにお任せしますというところだったんです。

それで、フラグメントが結構あって、私はイベント側にいたんですけども、はっきり言うと、何でもこれはプログラム委員会でやってくれないんですかというようなことは、全部、イベント側で、処理、事後的に、もしくは、直前まで処理を……。処理というか、情報を集めとか、いろいろしていたというところはあります。

その経験をもってして、私はプログラム委員会に来たので、プログラム委員会のほうで、ここは、今まではプログラム委員会……。あんまり動かさないでください。まだ、例を見せてください。

今までのやり方は、こういうことで、プログラム委員会とステークホルダーエンゲージメント、要は、勧誘というか、皆さん、おいでというところと周知、広報委員会というような感じでしょうか。

イベント委員会、実際のハンドリングをしているところと、一応、事務局という感じでした。

結局、これは、どうなんだろうということ、3月の話になっていたわけですけども、私は、これは冗長だというふうに考えています。今の現時点で、イベントが、すごいですね……。オンラインでやるか、オフラインでやるかということは、確定はしていませんが、そんなに大規模にオンラインで、例えば、どこかのホテルを借り切ってやるようなことでもないのかなという情勢ですし、そこまでのものというのは、特段、予算上、出てきていないと思います。

逆に、一番大事なところは、ここがプログラムをつくるということが大事なんです、エンゲージメントも大事なんです。エンゲージメントというのは、やはり、私の考えでは……。このB案を映していただけですか。

エンゲージメント、まさに堀田さんがまとめてくださったとおり、このことなんですよね。プログラム委員会の中で、プログラムの開発もやりますが、それと同時に、登壇者などという人も集めてしまうということなんです。

登壇者を集めるということは、その組織内にも周知をお願いするわけだし、以前だと、昨年場合は、通信会社の研究所の方とか、大学教授の方とか、それぞれの見識のある方に、そろっていただいたんです。

今回は、やはり、そここのところで、私の意見では、ユーザー観点到ったもの、ユーザーファーストなものを出していくべきだと思って、インターネットが、インターネットを技術的に運営している人と、インターネットの組織・技術を研究している人と、方法・理論などという人たちだけで運営されるということは、ナンセンスなことですね。

結果的に出てきたものが、ユーザーフレンドリーでないとか、実際にユーザーが、別の意図した方向とは違う方向で使ってしまうことは、いっぱいあるわけで、そういった方向性について、どうしていくのかということ、これは、グローバルにも考えていることですが、まず、日本として、考えてい

くことだと思っんです。だから、この裾野が非常に広いというところが、まず一つあります。

それは、いろいろ考えてみたんですけど、エンゲージメント先は、何とかの団体にしましょう、要は、省庁に聞いてみて、こういう団体にしましょう、まず、省庁に言わないと、いけないです。

今、言ったように、主には、経産省もそうだし、デジタル庁もそうだし、総務省もそうだし、内閣官房も、もしかしたら、インターネットと青少年みたいなところの切り込みであるのかもしれませんが。そういったところも、政府横断的に、いろいろ、来てもらいたいということが、まず一つに、頭の中にあります。

それと、業界団体といったところは、もちろんなんですけど、よりそのユーザー層ですが、直接、市民とか、ユーザーに関わる企業、いわゆる名だたるツイッター、インスタグラム、フェイスブック、GAFAMも……。GAFAMだけではありません。例えば、それ以外のヤフーとか、LINEとか、いわゆるそういう大きなプラットフォームもそうですし、もっと小さなサービス、いつも参加していただいているインターリンクさんのように、中小のプロバイダーさん、モバイル事業者といったところも含めて、いろいろなファクターの皆さんに入ってきていただく。

そこに対して、みんなが集まっているところに、ユーザーから、いろいろなことが、ユーザー企業であったり、個人であったり、いろいろな立場の人が、ああだこうだ、これ、困るんだよねという話をしていただく。そういうふうなものが、また広がって行って、もっとこういう話ししましょうといったら、もしかしたら、そこに分科会ができるかも。

ですから、このプログラムをつくるということは、あくまで、人をみんな呼び集めて、おいで、おいでというところのものであって、みんなが、ここに、わっと集まって、お祭りを……。お祭りという、語弊がありますけれども、そういうようなことを開いていただく。みんなが集まる場所のきっかけにするということなので、ただ、プログラムをつくれれば、いい人が……。広報すれば、人が来れば、40人ぐらいが来ればいいかなというふうなものでは、決して、目標、ターゲットは、そこではないと、私は思っているというところなんです。

結局、委員会は、3つやるか、一つにするかというだけのことで、そんなにやれることも、やる範囲も、あんまり変わらないかなというふうには、私は思っているところなんです。逆に、そこにあんまりこだわる必要はないのかなと。

もし、すごくこだわる必要があるのであれば、それは、あれなんですけれども、3つに分けることは、できなくはないですが、今、ここにいる人数が20人そこそこなんで、仮に20人全員が、このイベントに関与していただくとしても、せいぜい5人か6人ずつになっていくわけで、そうなってくると、そんなに分散化させる必要はないのかなという気はしているということが、私の提案になります。

もう一つのほうへ戻っていただけますか。ごめんなさい、もう一つのほうというのは、先ほどのレジユメのほうに。山崎さん、ごめんなさい、レジユメのほうに。

【山崎】アジェンダのことですか。レジユメというのは……。

【本田】アジェンダのほう。語句の定義が……。すみません。

2つ目のほうが、プログラム委員会の進め方について。進め方についてということは、これは、プログラム委員会の中で決めることが、ほとんどのように思っています。

ただ、上村先生……。

【山崎】すみません、山崎です。割り込ませてください。

ごめんなさい、これは、古いです。進め方については、前回やったので、今日は、その募集要項を固める、イベントの名前を固める。もう一つは、テーマを固める。その3つだと思いますけど、上村さん、合っていますでしょうか。

【上村】はい、今、手を挙げたんですけど、それは、別の目的で、手を挙げたんですが、私が、今日、皆さんにお話ししたいと思っていたことが、今、多分、山崎さんがおっしゃったことなんではないかと思います。

先ほど本田さんがおっしゃっていたプログラム委員会の守備範囲について、画面を奪わせていただいて、私なりの理解を説明させてください。

これは、いつだろう、堀田さんが以前まとめてくださった、プログラム委員会のタスクです。私の頭の中にあるプログラム委員会のタスクは、このT1から、T4ぐらいまでなんです。

ところが、今、本田さんが御説明になったことの多くは、この表の中には入っていないことです。その中には、この表の中に、すぐに入れたほうがよいと思うものもあれば、入れる上で、慎重にというか、この場で、チーム会合の場で、検討したほうがよさそうなものもあると思います。

例えば、細かい話になりますけど、このままだと、プログラムの時間割的なものは、プログラム委員会で決めてもいいんだと思いますけれども、会場をどうするかとか、日付の決定をどうするかとか、この後、御意見をいただきたいと思っていたことで、通訳の提供をするか、しないかとか、あるいは、会議そのものを、完全バイリンガル対応にできるようにするのか、1.5リンガルぐらいにするのかといったところなんです。

実は、私のイメージだと、現在のプログラム委員会で任されても困るなあというようなものもありまして、そこについて、本田さんが、どう考えているかというか、どういうふうに仕切るのかを見せていただかないと、ちょっと困ってしまうなと思います。

なので、募集要項の話は、後でさせていただきますけれども、そこに入る前に、採用した、決めた要項に沿って、この後、我々がワークを進めていく上で、いろいろ漏れてしまうことがあると思いますので、そこについて、大きな話ではなくて、もう少し形の見える話を、本田さんにはしていただいたほうがよいのではないかと思います。

そもそも論も大変大事で、異論も全くないんですけども、では、それをどういうふうに進めれば、例えば、先ほど本田さんがおっしゃっていたような人たちが、プログラム委員会の場に来るのかとか、その辺がないと、絵に描いた餅になってしまうということです。よろしく願います。

【本田】上村先生の御懸念はごもっとも、何でもかんでも、プログラミング委員会で、やるとなると、セッションの準備だけで、手いっぱいなのに、そんなあれこれ、物理的なことまで入れるのかという話です。

そんなに細かいところは、僕の意見では、こだわる必要はなくて、別に……。

【上村】すみません、ちょっとごめんなさい。そこです。こだわらなくてもいいんですけど、今のままだと、宙に浮いているんです。

なので、プログラム委員会が巻き取るべきということで決めるなら、それもあるでしょうし、プログラム委員会でないんだったら、じゃあ、どこで、それを巻き取るのかということ、この場で決めないと、我々は先に進めません。

【本田】はい、今、お話ししたいと思います。

【上村】その点について、議論をして……。

【本田】今、お話ししたいと思います。

ここで結論が必要な事項と書いてありますが、基本的に言って、私の考えは、これは、お金さえあれば、解決すると思っています。

会場だって、広いところは、公共機関であれば、大体の値段は、知れた値段ですし、どこでやるかは、まだ決めていないので、そのところはあれですけども、いわゆる公的なところでやれば、極論を言えば、総務省の講堂でやってもいいわけです。そうですね。貸してもらえないですか。

飯田さん、どうですか。

【飯田】いや、どうでしょうか。可能性はなくはないと思うので……。

【本田】予定さえあれば、できないわけではないわけですよ。

【飯田】そうですね。ちょっと……。

【本田】極論を言うと。だって、3.11のときに、みんな、あそこへ入れてくれたりしましたよね。

それは極論ですけども、総務省の皆さんとか、いろいろな方の御協力をいただければ、別に、この物理的なところというのは、そんなに解決できないことではないと思います。

英語についても、だって、これは、IGFのことをやるわけだから、外務省に何かを持ってきてくれというわけではないですけども、通訳だって、予算をつければ、当然、英語セッションにできるだろうし、日本語から英語もできるし、英語の人にしゃべってもらって、日本語、IGFの誰かが、せっかく河内さんがMAGに出ているから、何かそのコネクションを使って、1人ぐらい英語スピーカーの方に、グローバルからの視点を話していただこうとかは、別にできなくないし、お金さえあればできるということが、私なりの答えです。

できるか分からないので、どうしようということ、はっきり言って、待ちの体制になっていくので、できる方向にするために、イベントは、ハイブリッドでやりましょう、やる場所は、総務省でも、どこでもいいので、できるだけ広いところを借りましょうということが答えになる。

イベントロジはどうするかということは、ロジの専門の人は、もちろん、もともと、私がロジ寄りなので、ロジ寄りでもいいと思っていますし、追加で、そういう何かロジだけを、ボランティアを募集しても構わない。

それは、どこか……。どこかというと、ちょっとふわっとしていますけれども、もちろん、そういうロジだけをやってくれる人を探すということもできます。それは、プログラム委員会が、全部これを背負うという意味では、ないです。

ただ、大枠で、今日、テーマは決めますかということは、テーマは決めるという方向ですけれども、会合の名称や時期、主催の3つぐらいは、全体会合の中で、決めたほうがよかろうというふうに、僕も感觸的に思います。

主体のことを、プログラム委員会が決めるんでは、それは、この全体の動きを決めるのは、誰だということになってしまうので、それは、やはり、全体会合で、特に主催のことは、あれですけれども、時期、日付、日取りなどの細かいところについては、やはり、プログラム委員会が決めたほうがいい、もしくは、プログラム委員会にお任せしますと、全体会合のほうから、チームからは、委任をするというか……。

上村先生にしたら、それは、ちょっと荷が重いなというふうに、そんなふうにお感じになっているのかもしれませんが、すみ分けという意味でも、あんまり細かいところを……。

この前も、組織化のときに、紛糾してしまいましたけれども、ここのチーム会合でやるべきではないと思っていることは、私の答えになります。

【山崎】上村さんから、手が挙がっています。

【上村】プログラム委員会、上村に任すみたいなお話が進んでいることは、ちょっと困るんですけど、私は、先ほど見せた表の範囲でやるつもりだったので……。

【本田】そんなことは、言っていないです。

【上村】それ以外のことをやるんだったら、仕切り直して、もう一度、どうするかということをお願いしたいほうがいいかなと思います。

【本田】いや、いや、上村先生に……。

【上村】もう一つ、ごめんなさい、それは個人的なことなので、すみません、聞き流してください。先ほどのお金があれば、解決するというお話ですけど、例えば、お金があれば、あったで、では、どこどこに話を持っていくとか、どこの会議室を契約するなどといった話は出てきますよね。

そういうことを、プログラム委員会がするのか、しないのかというところが、今、宙に浮いているので、お金があれば、解決するということは、確かにそういう側面もあると思うんですけど、誰がそのお金を使うのかというところを、はっきり決めないと、やはり、先に進めないのではないかと心配をしています。

【本田】組織化論と、同時に、並行していく部分もあると思います。

前村さん、例えば、仮にお金を集めるとして、集まったとして、組織化の前で、一旦、JPNICがプールしておいて、それを代わりに支出しますということは、あり得るんですか、ないんでしょうか。前村さん。

【前村】とても答えにくい質問でした。

例えば、JPNICというところが、腹をくくってというのか、覚悟をして、運営の母体となる機能を提供するというので、そういうふうなことができるようになる可能性はあると言えば、あるでしょうね。それくらいの感じの答えになってしまうと思うんです。

【本田】この後の組織化につながる予算づけというところまでは、責任を負えないまでもにしても、ワンタイムのイベントの部分については、一応、主催という形になって、胴元になっていただくことが、可能には、可能な検討ができる？

【前村】分かりました。私が何を言っているかということ、秋イベントをやる、成功させたい、私たちもさせたいです。

この活発化チームを発展的にやっていくための組織化というのは、それは、それで別物としてあって、それはミートしない可能性があります。

今のところ、8月に法人化できるかなという線をお見せして、検討しようとしているんですが、これは、秋イベントには、その団体は既に存在する状態でお見せしたいと思うからであってという意味では、それは、既にあるんです。

ただ、そこまで機能するか、どうかという意味で、レディーではないのかもしれないです。

いずれにしても、そういったことで、法人のような母体が、書いているから、秋イベントができない、涙のことにしたくないので、そこに関しては、JPNICは、できるだけことはしようと思います。

【本田】コミットメントをいただいて、ありがとうございます。

今、言われたところが、まさに懸念で、組織はつくるんだけど、組織が、まだイベントのほうに間に合わなくて、イベントの支出ができないとなると、結局、それは入れ子になってしまうので、実際の運営は、主体は、もう組織としてやるだけけれども、ただ、そのところで、共催という名義を借りる感じにさせていただいて、コンバインしていただいて、今、ここで言う必要はありませんけれども、うまく会計処理や細かいところをしていただく。

実際に、支障なく、スムーズに移行できるように、言わば、JPNICが火つけ役となっていただくという期待も込めているというところが、私なりの答えになります。

上村先生、いかがですか。少しはクリアになりましたか。

【上村】いえ、あまりクリアにはなっていませんが、お話自体は分かりました。

【本田】何かここが気になるというところがあるんでしょうか。

【前村】加藤さんの手が拳がっているのが、関連するんだったら、加藤さんに伺ったほうがいいかもしれない。

【加藤】関連します。

今のお金の云々の話は、今までの議論からすると、もう明らかに違ったポイントで、法人化の話の中で、お金の話はありましたけれども、今回の秋イベントについて、新たにお金を集めるという話が、もしアジェンダとしてあるなら、今日のアジェンダとして、事前に、ちゃんと出していただくなり、今まで出てくれば良いと思ったんです。

どういうふうに秋のイベントを運用するかについては、先ほど、突然、政府のほうで、場所を借りてというお話もありましたけれども……。

【本田】それはアイデアなので、それは気にしないで……。

【加藤】一般的には、IGFは、政府の場所でやるということは、あまり好まれていないので、そういうこともあって、いろいろ日本でやった場合でも、大学の場所を安くとか、本当に無料で使わせていただくとか、JPNICさんにいろいろ提供していただくなどということがあったという感じかなと思っています。

今回も、そういうレベルで、特にこのハイブリッドだという方向で決まるとしたら、そんなにすごい大きな会場が必要じゃないわけじゃないので、そういうことでいいんでしょうかということを決めていただくんだと思います。

今の議論の流れで、また、今日も、どんどんこういうことで、時間を取るんですけども、アジェンダ・アイテムとして書いていることを、これはどうだということ、もし、当たり前のことなら、これでいいですねということで、この場でどんどん決めていくというふうに、進行をぜひお願いしたいと思っています。

【本田】はい。今、加藤さんのお言葉も受けて、次回は加藤さんを推薦というか、司会に……。それは、さておきまして、もう一回、話を戻していきたいと思います。

下のところ、セッション、会合の名称は、この前も話しました。全体のテーマについても、上村先生のほうから、幾つか出していただいていますので、まとめるという……。

【前村】いいですか。

【本田】はい。

【前村】すみません、上村さんが、これで、すっきりしているかといったら、していないんじゃないかなという……。

【本田】だから、そこを聞いたかったんで、ちょっと待ってください、待ってください。

【前村】はい。分かりました。失礼しました。

【本田】なので、そのこのところのテーマという、この2つのところは、まず決めないといけないので、ハイブリットか、どうかとか、その辺りは、また後からでも、決められることなので、今このリストされている中では、会合の名称とテーマ、それから、今、言った主催のところ、

どこでやるかとか、公園などということは、また別の話として、実際の会場も、別に総務省でもやって

いったって、どこでもできるはずだというふうに、私は言いましたけど、それこそ、大学の講堂でも、いわゆる低額なところで、できるわけなので、予算のところについても、ある程度、JPNICの御支援をいただきながらできるのではないかという、甘いというか、楽観的な感触を持っているということが、私なりです。

この中で、プライオリティーをつけて、考えなければいけないことが、会合の名称とテーマだと思います。

会合の名称について、資料、この前、話したところのログを出していただけますか。幾つか、事前会合というのは、やめましょうなどと、いろいろ言ったところだったと思うんですが、この前の出たところのログはありますか。もしくは、振り返りのところでいいです。山崎さん、今、出ますか。

その画面を出していただいている間に……。そうですね。ありがとうございます。メーリングリストでは、こんなようなどれかにしましょうという話に収れんしてきていたと思います。

事前会合というのは、事前というと、いわゆるその内輪のところの話で、事前勉強会みたいなそんな感じになる、事後報告会みたいな、そんな感じになってしまうので、大きくぶち上げるためには、フォーラムというので、つけたほうがいいんじゃないかということ。

何をやるのかというのは、IGFと書くよりも、ガバナンスというほうが、インターネットなどというところで、きちんと日本語らしく分かるところがいいんじゃないかということ。

サブタイトルとして、御提案したことは、「IGF 2023を見据えて」というと、日本でやるんやということころです。そこを捉えていくということも、私からもお話しして、それに対する賛同もいただいたりしたところでは。

では、このところについて、短くコメントや御意見、これ自体はどうなのかとか、この上と下、どっちがいいとか、サブタイトルは要るのか、要らないかも含めて、フリーに、何か御意見とかをいただければと思っています。

申し訳ありませんが、まず手を挙げていただいて、私もちゃんとあれを見るようにしますので、コメント欄をもう一つのiPhoneで見えていますので、挙手をまずお願いしたいと思います。

前村さん。

【前村】ありがとうございます。

推進フォーラムにしたいのは、インターネットガバナンスフォーラムを推進していくという、まだ、それに至っていないんだぞというところを表すということの御説明がありました。

それは、それで、そういう意味であるということは分かったんですが、「日本インターネットガバナンスフォーラム2022」のほうが、私は好きです。

なぜかということ、これから、恐らくは、こういう一番プレーンな名前のNRIにしていくんだと思いますので、推進などというものは、もう取ってしまったていいんじゃないのかなと思っています。

サブタイトルをつけることは、とてもいいアイデアだと思いました。

以上です。

【本田】短くコメント、ありがとうございました。

ほかの御意見ありますでしょうか。

堀田さん。

加藤さん、グッジョブ、ありがとうございます。

堀田さん、どうぞ。

【堀田】ごめんなさい、堀田です。

【本田】聞こえました。どうぞ。

【堀田】私も、ガバナンスフォーラム側でいいのではないかなと思いました。

小畑さんが、推進状態なんだからとおっしゃることは、よく分かるんですけど、インターネットガバナンスを推進したいわけではないんですよね。

【前村】確かに。

【堀田】インターネットガバナンスフォーラムという、その活動を推進したいので、細かい話になりますが、ガバナンスを推進するフォーラムだと言われると、ちょっと違うなという感じがします。

以上です。

【本田】ありがとうございます。

ガバナンスということも、一種の合議体という意味ですから、それを推進したい気持ちは、確かにやまやまですが、ガバナンスフォーラムというと、ダブル・ミーニングで重なっている感じもしますけれども、やはり、IGFというものを、その概念を広めましょうというところを、結果的にIGFのそのまま片仮名に直したところになるので、そういった意味のスマートさというか、意味の通りやすさがあるのではないのでしょうかというところも、私のコメントです。

ほかにございますか。

今日、初めて御参加の方もいらっしゃるのかもしれませんが、もしくは、カシワザキさんは、ごめんなさい、私、いつもお名前をよく拝見していないので、あれなんです、あとハマダさんとか、実積先生、ほかの皆さんも、最近、MLであまりお見かけしていない方々も、ぜひ、一言コメントをいただければと思います。別に促しているわけではありませんが、ネーミングのところですので、非常に重要なところになります。

では、これはどうなんでしょうか。いつも、ここで、私は、よく何か、じゃあ、あれを取ってみてくださいとか、アンケートを取ってみてくださいなどと言うけれども、あくまで、ここでアンケートを取って決めるというよりも、MLで……。

山崎さん、JPNICからお借りしているアカウントのほうでは、Googleドキュメントというか、何かGoogleの投票フォームみたいなものはできたんですか。

【山崎】できますけど、ちょっとお時間をいただく必要があるので、先に……。

【本田】今日、今すぐにという意味ではなくて、それを、今日、決めた……。

【山崎】いや、いや、今日できますけど、今、瞬間にはできないので……。

【本田】そう、そう、そう、そう。

【山崎】次の名称ではなくて、テーマとかをやっていただけると。

【本田】そうですね。今、そのところで、これと、これと、これを投票で決めましょうという感じにしてはどうかかなと思っているところなんですけど、ここに、今日お出になれなかった方もいるはずなので、MLで全体の合議を取るといふか、全体の投票というわけではない。

それが多数決となると、それも嫌いなんですけれども、一応、皆さんの意思を単純にメールの返信だけでなく、確認することは、合理的かなと思うんですが、いかがでしょうか。

上村先生、そういった感じで決めていくことは、いかがですか。

【上村】すみません、私に振られた意図が分からないんですけど、どういうことですか。

【本田】さっきのクリアでないというところも含めて、それは、この件ではないということですか。どの辺が……。もし違ったら、結構です。ごめんなさい。

【上村】クリアになっていない件については、ちょうど今、内職をしていて、チャットに論点をまとめたので、後で戻っていただければ、幸いです。

【本田】分かりました。ありがとうございます。

では、私の暫定司会ではありますけれども、一旦、今、この出たお話の中で、ガバナンス、推進をつけるか、つけないかだけのことで、だけというと、あれですけれども、その違いになりますので、一旦、この今の議論をログに残した上で、投票という形にさせていただこうと思うんですが、いかがでしょうか。

御異議、特になければ……。

【前村】前村です。

投票機能を使って、こっちのほうが趨勢かなと思うことはいいと思います。

ただ、一応、多数決で何か物を決するというモードで、ここは動いていないので、その投票機能を参考にして、この名前で行きますけれども、よろしいかと決めていくんだと思います。

【本田】ええ、それを言ったつもりです。

【前村】はい。

【本田】要するに、多数決で決めるのではなくて、少数意見も、もちろん大切にしていこうということが、基本ですので、議論を尽くした上で、いろいろな意見を聞いた中で、そこで、1の方が、いや、これはおかしいよねというものがあれば、当然、皆さんがそこで立ち止まって、聞いていくということはしていきたいと思いますが、むやみに、ずっと、続けていくということではないと思っています。

では、一旦、これは、そういうことで、預かりとさせていただきます。

アジェンダに戻っていただいて、今、かなり、ここまで、1時間……。

【上村】すみません、テーマについて、預かりということは、どういう意味ですか。今までだと、この場で、どうですかという案を提示して、それで1週間、ラストコールにかけましたけど、それは、今日はしないということになるのでしょうか。

【本田】別にそうされたいのであれば、そうしましょうか。でも、それは、ここにいない人は、推進がいいと思っている人は、何人ぐらいいるかは分かりませんし、ガバナンスのほうがいいと思っている人は、何人いるかは分からないけど、MLで返信を下さった中の議論を踏まえて、今、話をしているので、最終的には、皆さんの全体の数がカウントできたほうが、よかろうではないでしょうかという話をしたんです。

【上村】分かりました。

【本田】ここで決めてしまえばよければ、別にそれは、それで、構わないです。

加藤さん、何かありますか。

【加藤】すみません、加藤です。

前村さんや上村先生がおっしゃっている意味は、今の議論の中で、インターネットガバナンスフォーラム2022でいいんではないかという意見が、今、大勢だったので、推進というものをぜひつけるということがあれば、5日間の中で、こういう意見だから、ぜひ変えてくれということを使うという前提で、今、もう、決まったということでもいいんじゃないでしょうか。それが、コンセンサスという手続だと思います。

【本田】ありがとうございます。

と、今、加藤さんがおっしゃっていますけれども、どなたか、それに対して、何か御意見がありますか。特になければ、今の話の流れとしては、堀田さんの御意見もありましたけれども、推進というよりも、インターネットガバナンスフォーラムのほうが、ナチュラルでよいのかというところではありました。それを基本……。

【前村】恐らく、この場で推進をつけたほうがいいのかという声があったら、それを伺って、ないようであれば、この場のコンセンサスとしては……。

【本田】ちょっとお待ちください。実績さんから、コメントをいただいています。

タイトルについては、どちらでもいいです。

ただし、このタイトルでいく場合は、インターネットガバナンスは何かという点で、緩やかな共通理解がないことが前提となっていると思いますが、文章にしないで大丈夫でしょうか。これまでお聞きすると、気にしなくてもいいことかもしれません。このタイトルを公開すると、当然やってくる質問だと思います。

そのとおりです。インターネットガバナンスは何ぞやというところではなくて、インターネットは、そもそもガバナンスが利いていたの？みたいな話から入っていくので、そこは、確かに、もちろん……。

【加藤】すみません、私、続けてよろしいですか。

【本田】どうぞ。

【加藤】実積先生の御質問、そのとおりだと思うんですが、インターネットガバナンスフォーラムという言葉自身が、今、国連が関与して、17回、今度やり続けているものを象徴していて、それを日本でやるということなので、会議をやる中で、それは、丁寧に説明していくということで、このインターネットガバナンスフォーラムというものがあるということを知っていただく意味でも、この名称がいいのかなと思います。

【本田】ありがとうございます。

ただ、この御懸念についてはごもっともなところで、インターネットガバナンスの定義そのものは、非常に重要ですね。

それは、例えば、実際の表中の際のものなどといったところに、インターネットガバナンスについて、まず、それを説明する、定義するということは、丁寧に……。

【加藤】ですから、それは、インターネットガバナンスフォーラムというものがあって、そこで、17年かけてやってきているわけですから、そのものを踏襲して、日本でそれもやりましようと言っているわけです。

我々が勝手に定義するというので、このインターネットガバナンスフォーラム2022ということではないと理解しています。

【本田】失礼しました。定義ということは、言葉の説明をするという意味で、定義と言いました。

【加藤】それは、もうぜひ、ぜひ、我々の理解を説明して、それは啓蒙活動、非常に重要なことだと思いますので、それをやっていくということだと思います。

【本田】ターゲットのこととして、そもそも、17回やっている、国際的な、グローバルであるIGFというこの概念、その考え方そのものを、日本でもこれを適用して、インボルブメントとしていくということと、日本の中も、これをやっていかなければいけないし、アジアとして、広げていく。逆に、日本からも、この考えをフィードバックしていくということですよ。

日本がインターネットの主要なプレーヤーとして、もしくは、こういった技術面からも、経済面からも、国連を支えていますから、そういったところで、きちんと日本としての声を上げていくために、そのために、皆さんのお知恵を集めるためのきっかけとなることを思っていますので、推進することは、もちろんですけども、ガバナンスフォーラムというそのもの、フォーラムの場としていくことが、重要だと思っています。

そのために、インターネットガバナンスと、いきなり言っても、何だか分からないよということになるので、言葉の説明とか定義というのは、そういうものです。

ですから、もしかすると、これはあくまで私の個人的な意見ですけども、幾つか、4つなり、ないしなりあるセッションの中の一つは、必ずインターネットガバナンスの説明という基調講演というか、そういう部分として、扱われるべきかもしれません。全くのファースト・スターターの方に、インターネッ

トガバナンスに興味を持っていただく、理解していただくというところは、丁寧に説明していく必要性を感じておるところです。

では、一旦、お話もまとまったようですので、推進というところは、推進をしたいという気持ちは酌んだところですが、今回の名前としては、新たな幕開けということにもなりますし、インターネットガバナンスフォーラムということでもいくということ、全体の大勢として、決議というか、提議したいと。提議というのは、提案の提です。提議していただきたいと思いますが、このことに御異議ないでしょうか。

これで、出していただいて、セブンデイズコールというところでもしていただいて、その間に、何か大きな反対がないか、どうか、別の意見が、さらに、これのほうがいいというものがあるか、どうかというところを見たいと私は思います。司会として思います。

【山崎】山崎です。

チャットに推進をつけたほうがいいという方の御意見が上がっています。

【本田】チャット、ありがとうございます。失礼しました。チャットも、私……。

【前村】推進をつけたほうがいい……。

【本田】ちょっとお待ちください。

コメント、本家という意味が分かりません。

スガさん、ありがとうございます。今、コメントに来ていただいています、御発声いただくことは可能ですか。

【スガ】スガです。

【本田】ありがとうございます。

【スガ】はい。少し違和感があるのが、すみません、本家という言葉がいいかどうかは、分からないんですけど、IGFのランチ・イベントのように見えることが、気になりましたということになります。日本語に一応、開いた、翻訳をしているという意味で、そういうふうに誤解される方は、少ないようにも思うんですけど、誤解を生じるようなイベント名は、やめたほうがいいんじゃないかという意味で、推進をつけたほうがいいのかなということが、1点です。

もう一つ、推進の位置がおかしいという御意見がありましたし、僕もそれは納得するんですけども、やはり、プロモーションという意味とか、プレイベントであるということ、副題を込めて、皆さんに知っていただく位置づけ、イベントの位置づけを知っていただくという意味では、入れたほうがいいんじゃないかという意見でした。

もちろん、少数意見です、皆さんで決められた方向に賛同したいと思います、一応、こういう意見もあるということです。

以上です。

【本田】ありがとうございます。

【前村】前村ですけど、よろしいですか。

【本田】ちょっとお待ちください。

これに対して、逆に、いや、こうなんですよということが、もし、おありの方があれば、お願いしたいと思います。

【前村】その手を挙げています。

【本田】前村さん、お願いします。

【前村】私でよろしいですか。

【本田】どうぞ。

【前村】スガさん、ありがとうございます。

日本インターネットガバナンスフォーラムだと、IGFのブランチのように見えるのではないのかという御指摘です。

実は、National and Regional IGF Initiativeは、NRIというんですけれども、国ごとや地域ごとのIGF活動に対して、割と一番多いネーミング・コンベンションというのか、名前のつけ方は、国名IGFというものが一番多くて、すごくストレートな使い方なんです。

なので、そういった意味で、私とかは、これがしっくりくるんで、しっくりきますということで、ここに関して、あまりお気になさらなくていいのではないのかなということで、一言、言わせていただきました。ありがとうございます。

【スガ】ありがとうございます。背景を知らずに、発言してしまいました。申し訳ございませんでした。

【前村】いえ、いえ。意見表明、ありがとうございます。

【本田】だから、一応、IGFのところを当て訳をすると、インターネットガバナンスフォーラムなるんだけど、これはいわゆるNRIとして、正式な日本版のJapan IGF、日本支部というか、ブランチというふうに、名をりを上げるというほどではなくて、インターネットガバナンスを、皆さん、見てくださいよという名のフォーラムだということなので、そう考えると、確かに推進がということも一理あるんですが、推進を入れるか、どうかということは、確かにそうですね。

英語で表記すると、どうなるでしょうか。どれを英語ですか。推進をですか。プロモーションね。

プレイベントというと、ちょっと何か……。プレイベントといえば、確かにIGF 2023の日本開催を向けのプレイベントといえば、確かにそうなんですよね。

その前のところは、さておいて、推進フォーラムという言葉自体なんですけど、推進フォーラムという、例えば、橋を架けるとか、鉄道を引くとかの期成同友会みたいな、期成同盟会ですか、何かそういう、何かの大きなビッグプロジェクトをやるときに、皆さん、来ませんかみたいな、そういうものを、国交省とか、いろいろな役所で、よくやりますけど、推進フォーラムという言葉自体には、どんな定義があるんでしょう。逆に、それを聞いてみたい。どなたか、お分かりになる方はいらっしゃいませんか。推進フォーラムということ。総務省の方とか、どなたか、あれですか。一般的に、そういうフォーラム

というのは、どういふときにやるんでしょうか。

【飯田】 どうでしょう。何か政策を、具体的に、広く共有したり、推し進めたいときに、何か、それこそ官民で集まって、協議会みたいなものをつくって、フォーラムと称するみたいなものは、結構ありそうな気はしますが、どうでしょう……。

【本田】 そこで推進をつけてしまうかどうかということは、結構、意味があるんですか。推進をつける、つけないということは、結構。

【飯田】 いや、皆さんの御意見をお聞きしていて、それぞれ一理あるとは思いますが、本体と紛らわしいのではないかみたいことは、もはや心配される必要はないような気はしまして、それに向かって……。

先ほどの前村さんのお話ではないですけど、各地域や国のNRIは、まさにそういう形で名のついていますので、もうそこを目指して活動していると思えば、特段、我々は違和感ないですが、そこは、順番、手順のこともあるかもしれませんので、最終的には、皆さんが、一番、居心地のいいお名前にしていただいて、いずれは、日本としてのIGFは、我々であるとなっていけば、それでいいのかなと思います。

【本田】 何か公式にこういうNRIというわけではないんだけど、日本でやるよということは、何か承認を得たりする必要などはあるんでしょうか。ちょっと気にはなりましたが、そんなことはないんでしょうか。

【上村】 上村です。承認のようなものはありません。

ただ、NRI、インターネットガバナンスフォーラムを名のるのであれば、こういう要件は、満たしてねというような基準はあります。

【本田】 なるほど。

【上村】 ただ……。

【前村】 その基準に関しては、割と丹念に本家IGFのワーキング・モードに従って、つくってきているので、多分、大丈夫ですよ。

【上村】 はい。後半、それを言おうとしたところで、ヘルプをいただきました。

【前村】 失礼しました。

【本田】 はい。では、前村さん、そういうことで。

語順は、ジャパン・インターネットガバナンス・プロモーションフォーラムなのか、インターネットガバナンス・プロモーション・フォーラム・ジャパン2022なのか。どうだろう。何となく、ジャパンが先のような気もします。

何とかかんとかジャパンだと、ワールドもあるのかなという感じだけど、ワールドは、とっくにあるわけなんで、別にジャパン・プロモーションなので、ジャパンのほうが、ローカルプロモーションなのではと思います。確かに英訳もするといったときに、どうするのかなということはありませんよね。

だから、そんなふう言うのではなくて、英語版の場合は、promotional event for the Japan internet

governance 何とやらみたいなの。そうじゃないのかな。ま、いいや。ごめんなさい。そこは、ペンディングでもいいですか。ペンディングというか……。

日本語の名前は、これでいいんだけど、英語だと、もうちょっと、そのところは、うまい逃げ交わし方があるのかなという気はします。でないと、これは、本家と紛らわしい。日本だけ、何をやっているという話になってしまう可能性もあるから、そこはうまく……。これは、あくまで……。

【前村】いや、そんなことはないんじゃないかなと思うんです。日本で、こういうイベントをやりましたということで、NRIとして、きちんとJapan IGFというものが立って、認知されるということなんであれば、それにこしたことはないですし、そのイベントと、我々が……。我々が、プレだという感覚でやるということが、名前にしたためられている必要はあまりないのではないかなと思うわけです。

【本田】これが、英語版も提供して、英語のログも出すといったときに、誰かが、どこかの道で見つけたときに、あれ、日本、何やっとなねんと、日本、どこまでやっ取るの？という話にもなるので、そのところは、多少は、英語名のほうは、配慮が必要かななどという懸念は、しました。語順も含めて、確におっしゃるとおりです。

ただ、日本語版の日本語名だけを考えると、日本インターネットガバナンスフォーラムというのは、ガバナンスも、ある程度、有名な言葉ですし、フォーラムも一般的ではあるので、推進するかどうかのところなんですけど、加藤さんがおっしゃるとおり、確かにガバナンスの精神そのものは、既にもう始まって17年もやっているんだから、それを日本で、何かまた改めて火をつける話ではないので、日本で推進したいということは、もちろんですが、そこは、推進というのは……。

逆に、サブタイトルのほうを、「～IGF 2023日本開催も見据えて」というのは、もうちょっとそこに追伸の何かニュアンスを入れたら、入るかなと、今、思ったりもしたんですけど、それはそれとして、推進はつけない方向でということをおお勢としても、よろしいでしょうか。そのところに、改めてですけれども、御異議とかがあれば、表明していただけますでしょうか。

でも、スガさん、よい視点を加えてくださって、ありがとうございました。

【山崎】山崎です。

堀田さんから、手が挙がっていましたが……。

【前村】下りたから、よかったんじゃないですか。

【山崎】また、挙がりました。

【本田】見えなかった。ごめんなさい、私がよく見えていなかったんです。

すみません、お願いします。堀田さん、どうぞ。

【堀田】ごめんなさい、堀田です。

【本田】どうぞ。

【堀田】今回のフォーラムの中身自身が、推進のためのプログラムなのかというと、そうではなくて、推進状態にある、推進しなければいけない状態にあるということは、とてもよく分かるんですけど、推

進のために、フォーラムを組んでいるわけではないよなと思って、推進は違うなと思ったんです。ということが、言いたかったことです。

【本田】 推進のために組んでいるわけではない。

【前村】 アジェンダというか、トピックのディスカッションのために、フォーラムをやろうとしているはずだとおっしゃっているんだろうなと思いました。

【堀田】 そのとおりです。

【前村】 はい。

【本田】 うん。なるほどね。そうですね。インターネットガバナンスをするための推進ではないというか、インターネットガバナンスフォーラムという概念を、日本に再提議というか、持ち込もうとしている。

【前村】 はい。

【本田】 一応、いらっしゃらない方のフォローアップをするわけではないんですが、小畑さんの3月26日のメール返信を読みますと、小畑さんは、ガバナンス推進フォーラムがいいと思います。去年の参加者が3桁の下のほうであるということを見ると、ほかのインターネット関連イベントとは大きな隔たりがあり、ランニング状態というよりは、立ち上げ期というイメージを出したほうがいいと思います。ちなみに、そういえば、この上の2つは、前村さんの言われたことに、私、本田が、ガバナンスか、推進フォーラムかということを行ったところでしたね。何で、私は、推進を入れたんだろう。すみません、3月のことを忘れていた。

【前村】 恐らく、この場で、先ほど、上の日本インターネットガバナンスフォーラム2022が趨勢だという観測があって、であれば、ここのところは、それで、この場のコンセンサスを取って、ラストコールの間に、ここにいない方々の意見も聞くというのか……。

ここで、推進を入れるべきか、入れないべきかという議論をやる時間を費やすことは、あまり得策ではないかなと思いました。いかがですか。

【本田】 ありがとうございます。おっしゃるとおりです。

今、スガさんからのものについてもお答えがあったところであり、堀田さんからも、重ねてコメントをいただきましたので、一旦、ここは、今のこの会合の中では、推進は外す、ガバナンスフォーラムでいくということを決したいと思います。

それを7日間のコールにかけて、その間に、さらに重大な提議というか、異議が寄せられなければ、それでいきたいと思っているところです。

サブタイトルについても、特にコメントはありませんでしたが、これで、おおむねいいと解釈してよろしいでしょうか。おおむねというか、これでいくということです。

【上村】 上村です。

一つ質問ですけど、サブタイトルをつけて、さらに全体テーマがつくことになるということも含めて、

考える必要があるのではないかと思います、そこはよろしいですか。

私は、そういう意味では、サブタイトルがないほうが、小回りが利いていいかなと思います。

というのは、可能性としては、全体テーマにもサブタイトルが入る可能性があって、ちょっと冗長かなと思います。

【本田】そこはどうなんでしょうか。

【上村】関係ないのかもしれませんが、一応、意見として申し上げておきます。

【本田】そこはどうなんでしょう。私は、サブタイトルは、全体のところを串刺しにして、何て言うんでしょうか、表題を補足するという部分ですよ。

だから、大きく言うと、推進がここに入っているんですよ。推進の意味が、このサブタイトルで入っているんですよ。なので、私は外せないと思います。

ごめんなさい。司会から、私の意見を先に言ってしまいました。ほかの御意見とか、今の件について、サブタイトルは要るの？要らないの？みたいな話のところ、何かあれば。

上村先生の発言について、おありでしたら……。

【上村】ちなみに、強く反対するものではないですけど、そういう見てくれになりますよということを確認してから、意思決定をしたほうが、後腐れがなくてよいと思います。それだけです。

【本田】なるほど。

どなたか、そのことについて、コメントはありますか。

特に……。

はい、どうぞ。

【前村】きちんと全貌が見えるようにして、それでアグリーしたほうがいいという御指摘だと思ったので、今、山崎さんがそれをやってくれているんだと思っています。

【本田】改行は入れるんじゃないですか。1行は長い。

【前村】僕も、改行を入れたほうがいいような気はします。

【本田】山崎さん、改行は入れると思います。

これだったら、2022から23になってしまう。

【山崎】見る方の環境に大きく依存するので、ハードリターンは入れずに、見る方のブラウザとソフトリターンで対応したほうがよいと考えて、あえて入れていません。

【前村】だったら、スペースを入れましょう。

【本田】それだと、そうですよ。

【本田】ここを改行するか、しないかは、大きな問題ではないので、いずれしても……。

【前村】フルテキストで、こうなりますけどということですよ。

【本田】日本インターネットガバナンスフォーラム2022。うん、2022。そうね。そこに続いて、IGF 2023。

丁寧にするんだったら、IGF……。でも、IGF 2023というのは、もう言葉ですものね。そうなっている

から、それは、もう定義された言葉ですものね。

「IGF 2023年度、日本開催を見据えて」などというのものもあるには、あるけど、ざっとこんな感じですよ
ね。

ここのサブタイトルは要らないのではないかという、それは、メインテーマと二重になってしまうのでは
ないかということがありましたけど、私は、別にならないと思います。

IGF、IGFで、確かにリダンダントもありますね。確かね。サブタイトル……。

【前村】リダンダントなのは分かるんですけど、これが効果的だと思うことは、2023年に日本で開催す
るんだというふうな耳目を集めるようなテキストではあるんですよ。それに免じて、リダンダンシー
はいいんではないのかなと僕は思ったんです。

【本田】そうですね。

推進は外したんだから、そこはちょっと推進派の……。推進派と言うと、語弊がありますけれども、推
進というところのニュアンスを、そこに、このサブタイトルに込めて、残しておくことでいいのではな
いですか。

今、言われたように、実積先生がコメントされたように、「2023年日本開催を見据えて」というものも、
確かにアディショナルな案だと思います。

ただ、私が今言ったことは、IGF 2023というものは、それ自体が言葉なので、そういう語句があるので、
IGF 2023というと、2023にやるIGFだよねと、世界で1個しかやらないIGFだよねということで、それが、
日本でやるんだ、ああ、すごいじゃんというところなんで、2023年というのは、確かに3年は3年なんで
すけれども、IGF 2023というイベントネーム、そのものは、日本でやるよというところなんで、別にそ
んなに。

逆に、僕は、IGFを入れたほうが良いと思います。私の意見は、司会者と……。ごめんなさい、言って
しまいました。

ほかの人の意見も、もちろん含めていただいたほうが良いと思います。

実積先生が、多分、言葉で……。今は、チャットされたいのかなと思っているので、代わりに、代読を
しながら、そののところに対して、お話をただけで。

【前村】しゃべり過ぎかもしれないんだけど、いいですかね。

日本インターネットガバナンスフォーラムのインターネットガバナンスフォーラムというのは、本家の
IGFのことではないですよ。

IGF 2023のIGFというのは、本家のIGFなわけで、別なこと言っているんで、省くと、ちょっと変な感
じになってしまうと思うんですよ。

なので、上のほうを使うことが良いと思います。下だと、何の日本開催なのかがよく分からないし、Japan
IGFの日本開催ということに見られかねない。それもないのかもしれないんだけど、上のほうが自然だ
と思います。

【本田】 はい。IGF 2023というイベント名を生かすべきという御意見でしたね。

これは私の意見になるので、意見と司会者の意見と交ざると、また、それもややこしいんですが、1個、1個のことは、確かに丁寧に決めておく必要はあると思うんですけど、やっていくと、どうしてもいろいろな意見が出てきてしまうんで、それは、やはり、本来はメールでやったほうが、スマートなんですよ
ね。

そのところは、小畑さんがよくされていることは、小まめにメールを下さって、ありがたいと思うんですけど、メールのほうが、よく考えて、議論することができるので、私も、しゃべりながら、拾ったりしながら、自分の話をしながらという、どれが意見で、どれがあれなのか、司会なのか、分からなくなってしまうところがあるので、そこは気をつけたいと思うんです。

まず1点は、こうさせてください。今回、今、ここに出ているように、「日本インターネットガバナンスフォーラム」でいくということは、大まかに決めました。大まかというか、これが、大勢です。

サブタイトルについては、ある、なしも含め、プラス、この「IGF 2023」、もしくは、「2023年日本開催を見据えて」。もう一つ、このサブタイトルをなくす案をつけてください。

その3案の中から、一応、それで決めていく。これをポーリングする。それを基に、最終的には、7日間ルールを適用する。

これでいかがでしょうか。

【前村】 いいと思います。

【本田】 これの運びについて、御異議がある方、挙手をお願いします。

挙手がなければ、それで、全体、御同意いただいたということで、決しさせていただきたいと思います。

では、この3択の中から、ML上で、投票もしくはコメントをいただいて、これで決定をしていくということにしたいと思います。ありがとうございました。

では、もう時間が限られてきていますので、アジェンダのほうに戻っていただけますか。

【前村】 今、メーリングリストで、3択の投票機能をするとおっしゃいました？

【本田】 3択というか、この……。

【前村】 いや、この場ではなくてという意味ですか。

【本田】 いや、いいですよ。正直言うと、別に、僕はどっちでもいいんです。ポーリングしないほうがいいですか。

【前村】 いや、この場でポーリングして、この場のラフコンセンサスは、これで……。

【本田】 ああ、それをやりたい。

【前村】 それで、ラストコールにするというほうがいいんじゃないかと思ったんです。

【本田】 山崎さん、できますか。準備していただいていた方がいいですか。それ、一旦……。

【山崎】 15秒ぐらい、お待ちください。

【本田】 はい、そうしましょう。

【前村】それで、ワンステップ、早くなります。

【本田】引き延ばしにすると、長くなりますからね。

【前村】はい、そうです。

【本田】どんどん、先延ばしになっていくから。

【前村】失礼しました。

【本田】会合の名称は決まった。

全体のテーマ、テーマを決めるんですかというところですが、決めれば、決まりますと私は答えてしまいましたが、このままだと、時間がかかり厳しいですね。

テーマ案については、今、これは、あれですね。今、お待ちしている間に、お話をしているんですが…

…。

【上村】上村です。

全体テーマの話だったら、いいですか。

【本田】はい。そうですね。今、待っているところなので、どうぞ。

【上村】全体テーマについては、メーリングリスト上だと、3月31日の朝に、私から、皆さんにメールを出しています。

案が3つあって、一つは、「インターネットって誰のもの？」です。もう一つが、「今こそ知るべきインターネットの話題デジタルデバイドからウクライナ危機まで」、これはちょっと文言を変えたかもしれません。3つ目が、「今、改めて問われるインターネットの自由」ということで、その3つの案を、細かいことはさておき、私がまとめるに至ったものです。

本来だったら、私がメーリングリストに投げた段階で、もう少しファイナル・ドラフトというか、最終案にまとめる議論をリードしていただけるのかと思っていたんですけども、それがないので、案が3つのままで、今日の会合に臨んでいるということです。

取りあえず、現状としては、そういうところなので、あとは、司会、議長にお任せします。

ということですが、投票の準備ができたそうなので、先にそちらを片づけてしまっていないんじゃないでしょうか。

【本田】ありがとうございます。

今、そのテーマのことで、3つに絞られたのに、何で3つに絞ったんですか、分かりませんということをお前は言ってしまったので、本当にKYだったんですけども、その話は、次にしします。もう一回、今、次の予告をしていただきましたので、ポーリングに移りたいと思います。

では、山崎さん、それをZoom上で出していただくことはできますか。ありがとうございます。

投票詳細で、名称について。

1つ目が、サブタイトルなしのガバナンスフォーラム。

2つ目は、IGF 2023日本開催を見据えて。

3つ目は、2023年日本開催を見据えて。

では、回答を開始していただけますか。チェックしていただいて、送信を押していただく。そうすると、「ありがとうございました」が表示されますので。

山崎さん、回答がおおむね出そろった状況というのは、ライブに見られるのでしょうか。

【山崎】 はい、今、7名の方が投票をされています。

【本田】 ありがとうございます。過半数いきますか。

【山崎】 20名、参加しているので、もうちょっと多くないと……。

【本田】 20名といっても、JPNICのアカウントが複数あったりするので、それは、あれですね。

【山崎】 少なくとも十数件の投票があったほうが。

【本田】 そうですね。田中さん、日本ITU協会のタナカさんは、これは3台で参加されているということですね。もしかしたら、お声は出ないかもしれませんが、田中さんは、同じ名義で、3台、参加されていますので、純粹には16か17か、その辺りになるのではないかと思います。

【山崎】 今、9名の方が投票をなさっています。

【本田】 はい。もう少し待ちましょうか。

投票されていない方は、今の間、お願いしたいと思います。

確かに名称のところで、わざわざ、7日間、そんなに待つということもあれなので、どんどん後ろずらしになっていくので、この場で決めていくというところで、ある程度の……。

【前村】 すみません、7日間待つのは、この場に出てこられていない方々に対する配慮なので、それは待ったほうがいいのではないかなと思います。じゃないと……。

【本田】 いや、いや、そうなんですけど、この3択を示して、7日間待つよりはという意味です。

【加藤】 分かりました。おっしゃるとおりだと思います。

【本田】 そう。はい。

では、今、話している間にも、お待ちしていましたので、山崎さん、いかがですか。開票できますか。

【山崎】 10名ですね。

【本田】 画面共有をお願いします。

【山崎】 投票を終了しますね。

【本田】 はい、結構です。画面共有をお願いします。

ありがとうございます。

【山崎】 結果が出ました。

【本田】 ありがとうございます。

20%が、サブタイトルなし。

60%は、「IGF 2023を見据えて」。

20%の方は、「2023日本開催を見据えて」ということですので、大きく見ますと、優位に、「IGF 2023」

を入れたら、よかろうという御意見が出ましたけれども、いかがでしょうか。

これをもってすると、多数決ではありませんが、おおむね全体的なラフコンセンサスとしては、「IGF 2023を見据える」というのがよかろうというところなんですけど、これについて、何かコメントや最終確認等があれば、御発声ください。御発声というのは、手を挙げていただければと思います。特にございませんでしょうか。

特にございませんようでしたら、全体の中の総合的に見て、「IGF 2023日本開催を見据えて」というサブタイトルをつけたイベント名とすることに決したいと考えますけれども、よろしいでしょうか。

これを基に、もちろん、7日間、セブンデイズルール適用しますので、今日から7日間、このことを、MLの上、皆さんにお諮りするということ感じにしたいと思います。

もちろん、今日、参加された方も、ここで、メールで、再度、コメントをいただいてもいいと思います。

これは、ログに残した上で、皆さんにお諮りする事項として、ヘッドアップしたいと思います。

どうもありがとうございました。

では、アジェンダに戻ってください。

残りの宿題が、実はまだNRI活動についてとか、いろいろあるんです。名称を決めるだけで、息が切れてしまいました。テーマは、割愛はできません。これは、ペンディングにしたいと思います。

NRI組織枠組み／仕組みについてのところで、今日は前村さんが準備してくださっていたんですね。

【前村】はい、前村です。

【本田】はい、お願いします。

【前村】30分いただいて、30分間、皆さんの意識の共有をさせていただきたいと思ってはいたんですけど、今回、そこまで時間を取らないほうがいいのではないのかなと思います。

山崎さん、画面を奪っていいですか。奪います。ありがとうございます。

ドキュメントとしては、3つ、皆さんに、メールで、リンクをお送りしましたけれども、一つは、定款案です。

加藤さん、いろいろとお手伝いいただきまして、ありがとうございます。

こちらのほうは、一般的な一般社団法人の定款の例みたいなひな形があって、それを見て、わあ、結構かつり書いてあるからいいなと言って、書いたものです。

ただし、これはたたき台なので、デフォルトで残ってしまっている記述だったり、いろいろなものがあります。必ずしも起草者がこれにこだわって書いたというものではなくて、大ざっぱなものだとお考えいただいて、ただ、気になることは、皆さん、お示しいただけたらと思うんです。

これが定款例で、もう一つは、これが、定款を書く上での組織化に関する考え方を、ここにドキュメントしたものです。国内のインターネットガバナンス関連活動の組織化案としています。

こちらが、その精神を示しているものであります。

もう一つ、ドキュメントとしては、設立趣意書というもので、こういうテキストで、設立発起人をお声

がけするということでもそうでしょうし、会員を集めるということでも、こういう文で語りかけていくということだと思います。

つまり、これで、我々の意思が入っているものとして、このテキストが通用するかということです。

一つ、メーリングリストの上でもお示ししたんですけれども、今後のスケジュールとして、私が提案していることとしては、4月18日というのは、本日です。次の会合、5月の9日、3週間後だと、そうなるんですけれども、5月9日には、この基本方針を同意、合意に至らしめたいと思っているんです。

というわけで、あと3週間ありますので、その間にメーリングリスト上で、議論をして、5月9日には、ファイナルで、ファイナルイメージが決められるようにしたいなと思っています。

その後、5月30日までに定款案を定めると、少し堅めのことを言っていますけれども、お声がけを始めて、設立発起人を募ってという活動、いわゆるエンゲージメントを5月から6月にかけて行って、7月11日というタイミングで、最終的な準備内容を活発化チームで了承するという形にする。

その上で、法人の設立という感じで考えています。

時間は、何を隠そう、お金を出して、法人を形づくる方々が、どう集まるかというところは読めないんですけれども、少なくとも、活発化チームでつくった定款案、大方針として、こういうふうなものをつくるんです、いかがですかという下地となるものを、次回までに固めていきたいと思っています。

なので、それに当たって、御不明な点はお尋ねいただき、起草者である私自身も、いろいろなところに、まだまだクエスチョンマークがついているかもしれないわけなんですけど、お答えしていく中で、皆さんの共通認識として、こういう基本方針が定まっていけばいいと、それを次回に定めたいということ、一応、ちょっとアンビシャスかもしれないんですけれども、考えております。

今日は、3週間、吟味していただく上で、どうしても気になるようなところを御質問していただくというぐらいで、ここの部分はとどめたいと思います。

例えば、既に小畑さんと堀田さんから、この辺に、内容的にいろいろとコメントをいただいています、これらそれぞれも、非常に重要な要素ですので、ここにコメントを並べていただくと、大変助かるんです。

結構厳しいというのか、これ自体、本当に難しいなと思うことは、法人会員の会費、3ランクにする、プラス、個人会員を設けるというあたりが、どうですかと。

例えば、小畑さんからは、では、A、B、Cのランクの差別化をどういうふうにするんですかねと。小畑さんとしては、JIVAさんのやり方だと思うんですけれども、資本金みたいなもので、企業の規模を知って、それによって、A、B、Cが分かれているみたいな考え方で、お考えです。

そもそも、分けるべきなのかというお考えもあるかもしれないし、そういったあたりは、提示していただいて、その上で、これにしようよという感じにしていくのかなと思っています。

理事会、誰が理事になるのかとか、もっと言うと、誰が理事長を名のるようになるのかとか、その辺も、非常に重要なポイントであるにもかかわらず、まだ、まだ、全然、議論ができていませんので、そうい

う誰をどうするなどということは、なかなか平場でやりにくいのもかもしれないんですけども、この辺も、いろいろとお考え、情報交換させていただければと思います。

【本田】前村さん、ありがとうございます。

全体を拾っていただいて、ありがたいんですが、時間的な兼ね合いもあるので、スケジュールのところについて、まず、何か御意見あればと思います。皆さん、いかがでしょうか。スケジュール感のところ、一番大事だと思います。

法人化のスケジュールは、何年というか、かなり長い期間、先延ばしになっていることなので、なるべく早くできたほうがいいなということは、確かにそうなのかもしれません。

私が言う前に、実際、どなたか、コメントがありますか。私は聞きたいので、コメントはありますかと聞いているんです。挙手が見えない……。

【前村】挙手を確認するように、参加者ウインドーを立ち上げながら……。

【本田】今、挙手は特になかったのかなと思うんですけど、特によろしいですかね。

【前村】そうですね。

上村さんのどう清算するかということに記載するべきということ、ここに、意見として書きました。

【本田】ありがとうございます。それは……。

【前村】案外、定款案がどういうステータスのものができるのかとか、そこら辺は少し曖昧で、分かりにくいかもしれないと思いますが、曖昧なところは、できるだけ、かっちり固めたものを、次回お見せできるようにしていきたいなと思っています。

【本田】そうですね。

【前村】はい。だらだらと話していてもしょうがないので、もし御質問がないのであれば、今後ともメーリングリスト上でお尋ねいただければ、その度々に、私の意見もお示しますが、皆さんと議論できればいいかと思っています。

3週間、これは、皆さんで考えていきたいと思いますので、もう積極的にこちらのほうにコメントを並べていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【本田】ありがとうございます。

一つだけ、小畑さんのここに、発起人に選んだら、その人たちに、作業を移したほうがいいと思います。確かにそうで、だらだらと私たちの中の議論でやっていくということは、チームのほうとは、また別になってきてしまいますので、まず、この専属……。専属というか、これを専門に組織化のところをやっていただける何か分科会のようなもの、そんなものがあつたらいいなとは思っています。

もう一つ言うならば、6月中というところは、当然、社内調整とかもあるので、すぐには、あれかもしれないけど、前倒しで、発起人の中でも筆頭になるような、一番、火つけになるような方々を選考して、声かけをして、社内稟議にかけていただくということと、そうする中で、少しでも7月11日ということが、なるべく早くなるか、どうか。

年度が、ちょうど年の前半と後半と切り替わるころでもあるので、8月からというところに、一応、目標としては、そうなんです、気持ちとしては、もう1か月ぐらい早めの気持ちで、やってもいいんじゃないかなというところは、コメントです。

【前村】ありがとうございます。

【本田】ただ、これも、かなり挑戦的なスケジュール感ではあると思いますが、前村さんが、ここまで書いていただいたという御意思是、よく伝わってきます。

【前村】加藤さんは、最初、4月に法人化という、それくらい早くしろということで、メッセージとして承ったんですけども、活発化チームの中のコンセンサス・ビルディングというところもそうですし、調整というものもあって、法人を立ち上げた後に、定款を変えるということは、それはそれですごく大変なことでもありますので、これくらいのタイムラインかな。

そのプラス、秋イベントのときには、既に法人ができていて、法人として、何らかのことができるような仕組みになっていないと、もう駄目だろうと、メーリングリストでも書いたんですけども、そういうふうに思いました。

なので、これでも、チャレンジは十分あり得るスケジュールだと思いますが、できるだけ、ミートしていききたいなと思っているところです。

【本田】ありがとうございました。

では、引き続き、メールと、もしくは、ドキュメント上での議論、コメントを重ねていきたいと思えます。また、これは、次回、お願いしたいと思えます。今日は、申し訳ございません、議論できる時間を十分に確保できなかったことは、おわびいたします。

では、アジェンダに戻っていただけますか。

アジェンダは、これでしたか。この下へ行ってください。

募集要項についてのところが、目に見えているんですが、まず、一旦、下に行ってください。

ユースについては、割愛します。すみません。

チーム会合の運営についてですけども、何度かやってみて、はっきり言って、私がやっても、うまくいかないのが現実のところ、なぜうまくいけないのかということは、ある程度、分かっているんですが、分かっているけどできないのが、私のところでもあり……。

私は、もう昔から前村さんがやってくださって、すごくありがたいなと思っているんですが、前村さんもやはり御自身のものがありますし、私も自分でしゃべりたいというところもあるので、そこで、議長などというふうにしていくことは、あんまりなじまないのかなということ、私は、感触ではあります。このことについて、議長とか、もしくは司会にするのか。一応、ローテーション制というか、何かこう、立候補の中で回していくのか、もしくは規則を定めるのというところなんです、そんなに長い時間はありませんが、何かコメントをいただけるところはないでしょうか。

【前村】よろしいでしょうか。

【本田】前村さん。

【前村】議長にするべきか、司会にするべきか、運用規則を定めるべきかなどなんですが、一つポイントとしては、チャーターは、丁寧に採択して、チャーターができているんですが、チャーターが定めるところは、年に1度以上、見直しをするということを定めていまして、チャーターを見直して、ルールとして、確定するということが、一番、堅いやり方だと思います。

それ以外に、いや、運用で実質的にそういうものを担保しようというところはあるんだと思うんですけども、というわけで、方針が決まったら、リチャーターするということを考えたほうがいいのかもしれないし、あるいは、もう法人化するんだったら、そっちに委ねていくのかなという感覚もあるのかもしれないです。その辺も、皆さんの感触を伺えたらなと思うところです。

【本田】普通に考えて、理事長が、議長もしくは司会にならないといけないということはないわけですよ。この前の議論からしても……。すみません、私がしゃべってしまいました。

前村さんのところについて、短くさせていただくと、法人としての組織は、飾りではないけれども、あくまで箱みたいなものであって、インターネットガバナンスとして、日本でやる場合は、みんなが自由に出てきてやる、今やっているチーム会合の延長みたいな形で、比較的自由的な形でやるというふうなことが、前回出た皆さんのラフな意見だったと思っています。

もちろん、チャーターはあるので、チャーターを引き直して、もう一度、見直してというところはあるだろうし、これ自体も、第一歩から変えていくということはあり得ますので、そこは、そうかなと思います。

そもそも、ここには、司会は合議でやるみたいを書いてありましたか。組織構成のところ、あくまで司会という位置づけとし、アクションはあくまで出席者のラフコンセンサスとして示される必要がある。だから、ここで、議長を置くとは、別に書いていないし、特に役職としては置かない、フラットに置くと書いてありますね。

【前村】これでやってきて、やはり進捗しないではないかという感触を、議長を置いたほうがいいのかという考えの中には、含んでいるんだろうなと思います。

【本田】ただ、今、言ったように、私が、今日も投票する、しないの話で、あれ？となってしまうけれども、結局、ルールがないから、投票で決めていくとか、もしくは、こういうふうなことで決めていくのか、ちょっと足りないから、だから、決めるときに、決められない。それは、議長がいる、いないの話ではなくて、ラフコンセンサスを採用しというところが、ちょっと怪しいのかなという気はします。

欠席者の意向を反映する。それは、もちろんなんですけれども、多数決とかではなくて、全部、ラフコンセンサスという、ラフコンセンサスというのは、何なんだ。ちゃんと皆さんの合議が、要は、議論が終わるということは、どこで終わったとみなすのかになってくるのかなという気はします。

必ずしも多数決ということで、要は会員が決まっているようなものではありませんので、入ったり、出

たりもあるし、結局、別に毎回、出なければいけないと決まっているわけでもないのに、そういう意味で、多数決で票を決めるということは、あまりなじまないと書いてあるのは、確かにそうなんです。だからといって、何事を決めるときも、少数意見もくまなく全部拾って、徹底的に議論も済ませないとなると、一つのことを決めるのに、3回か、4回ぐらいかかってしまうんじゃないでしょうか。

そうすると、それだけで、平気で3か月ぐらい過ぎてしまう。それでいいんでしょうかということが、上村先生のチャットでのあれだというふうに思っているんです。何かを決めるにつき、全部こう、全体テーマを決めるにつきです。全体テーマでも、何にしても、全部、こうなっていくのかなというところが、確かに私も疑問ではあります。

違うと思いますというのは、どういうことでしょうか。

【上村】そこで、何で、私の名前が引き合いに出されたのかが、分からない……。

【本田】いや、全体テーマは、適当にあしらいますがというところで、私はこれをあえてスキップしたんですけど、これは別に今日決めないと、今、決めたわけではなくて、ほかの話を先にやってしまってから、全体テーマの話をもしのできるのであれば、もう少し延長して話をしたほうがいいのかと思ったので、先にほかのことを終わらせました。

【上村】なるほど。分かりました。

【本田】はい。

【上村】失礼しました。

【本田】そこは、時間を……。

【山崎】山崎です。

全体テーマとは別に、募集要項をファイナライズして、ゴーをしないと、募集は開始できないということも、上村さんはおっしゃっていたと思うんです。

【本田】ごめんなさい、これは、逆に、皆さんへの質問ですが、募集要項も、全部、このチーム会合で決めるんですか。そうなんですか。

【上村】今のつくりだと、そうなっている……。

【本田】それは、ちょっと、もう1回、さっきの……。

【上村】ごめんなさい。それを変わるんだったら、こう変えましょうという話を決着してくださらないと、私も動かせんということはずっと言っているんですが、堀田さん、今日はいらっしゃるので……。

【本田】そうですね。そこを……。

【上村】堀田さんの話を聞いたほうがいいんじゃないでしょうか。

【本田】分かりました。

さっきのリストのところを見せていただけますか。プログラム委員会のスコープのリストのところ。それではないです。プログラム委員会のタスクリストみたいな。どれでしたか。さっき見せてくださったもの。ちょっと待っていきましょうか。

上村先生の御懸念は、もうさっさと募集要項を決めなければ、募集もできないし、どうすんだということですよ。

【上村】それよりは、秋のイベントをどういう体制で動かしていくのかを早めに決着していただけないと、私も動けないですし、プログラム委員会に名前を挙げてくださった方も、動きにくいと思うんです。私が、先ほど、プランA、プランB、どちらを選びますかと、こう形で示しましたが、今日、どちらにするかというぐらいは決めないと。先ほどの本田さんのお話では、ここについて、何にもお答えになっていないと私は思うのです。だから、ちょっと困ってしまったなと思います。

【本田】分かりました。

堀田さんは挙手されていますが、この件に関してですか。プログラミング委員会に関してですか。

堀田さん、挙手され……。下ろされました？

【堀田】違います。

【本田】別件で。

【堀田】何か、これ、議論が構造をなしていないので、何が話されているのか、私、全く分かっていないです。

【本田】もう1回、戻ります。

ここまでは、先に全部のことをさらいました。

全部のことをさらって、組織化のときに決めるということについて、決められないという話があったんだけど、チャーターを見て、一応、ラフコンセンサスでやれるねという話になっていましたねということになりました。

でも、そのところ見直すのは、また別の話として、私は、もう最後のパートは、上村さんの懸念は何ですかというところに、話が、一番、軸に戻っています。

それは、このプログラム委員会がやることの範囲ということと、全体のテーマを、要は、そういうことを決めなければ、実施要項、募集要項も決められないのだから、早くしないとイケませんよというところなんです。

テーマよりも、まず、所管範囲のところに行きましょうか。

山崎さん、さっきのプログラム委員会のリストのところは出ましたか。どれでしたか。

上村先生が出されたんですか。リストのところ、上村先生が出されていた。

【山崎】私は、それが手元にないので、上村先生が……。

【本田】ごめんなさい、上村先生がさっきお示しになった、その、これがスコープですよというリスト、ここに、本田の言っていることはないだろうというふうに言われた。

【上村】それを映せばいいですか。

【本田】ええ。ここですよ。これは、第1回のプログラム委員会で決めたログです。

【上村】いや、違います。これは、参考となっているように、堀田さんが、もともと、案をつくって

ださったものを、私が作業用にまとめただけです。

【本田】そうですね。失礼しました。申し訳ありません。そこに出されたものです。

これは堀田さん……。言ったら、あれですけど、A案のほうの話でしたよね。

【上村】そうですね。はい。

【本田】私……。

【上村】私も……。ごめんなさい。失礼しました。

【本田】どうぞ。どうぞ。

【上村】いや、まず、本田さんのお話。失礼しました。

【本田】私は、別に、これは、そのところに異議があるとか、これ以外のことを、もっと、もっとやるべきだと言っているわけではなくて、あくまで、ここをベースとして、例えば、エンゲージメントと言いましたが、スピーカーを決めるときに、提案者だけの中では限られる、ステークホルダーが全部そろわない可能性もあるから、どこそこの誰々さんと呼んできましようとか、どこそこのこういう団体にちょっと聞いてみましょうかみたいところをアレンジをしながら、つくり込みをしながら、そういう組織そのものをエンゲージしていく、そういうスピーカーをエンゲージする、イコール、組織をエンゲージしていく。そういうようなところの限定的なレベルにとどまるのかなとは思いますが。

実際にプログラムができたときに、組織化会合のほう、組織化の設立発起人に入っていただくこのこっちのリクルーティングを含めて、それは、また、多元的にエンゲージメントが進んでいくものと思いますので、プログラム委員会でエンゲージメントをやることは、どうですかとは言いましたが、プログラムへのエンゲージメントというところは、主体になるわけであって、副次的に組織に対するこのエンゲージメントになるのかもしれないけれども、いわゆる……。

前村さん、結局、去年、考えていたような大規模なエンゲージメントは、なかなか、できなかったんですものね。

【前村】結果としては、そうで、うまく運ばなかったなど、どうリベンジしようと思っています。

【本田】そのところを、小規模にやりませんかというだけのことなので、別にA案を否定するわけでもないし、当然、A案に何か物すごい大きな肉づけをしたいというわけでもないです。

【上村】それは、A案ですか。B案ですか。どちらですか。

【本田】私が言っているのは、B案です。

【上村】B案。そうすると、では、B案の scope を本田さんがまとめてくださって、それを基に、プログラム委員会の補充とか、今、プログラム委員会をやっている方の意向の再確認が必要だと思うんです。

【本田】ま、そうですね。

【上村】それから、さらに、プログラム委員会の中で、やはり、前回のプログラム委員的な人たちのグループと、それとは違うタスクを担った人たち、重複して構いませんけど、グループを分けたりして、それぞれのリーダーを決めた上で、プログラム委員会全体のリーダーを決める必要があるんだと思うん

です。その話が、今日、全く進まなかったの、どうする……。

【本田】ごめんなさい、それは、逆に、プログラム委員会の中で決めては、駄目なんですか。

【上村】駄目じゃないですか。

【本田】プログラム委員会のことは、プログラム委員会で決めたら、駄目なんですか、プログラム委員会がどうあるべきかを、全体会合で決めないと駄目という御意見ですか。

【上村】いや、ですから、本田さんが素案を出してくださる分には、構わないと思いますけど……。

【本田】別に、もし、私の素案のところまで止まっているのであれば、逆に、それが、皆さんの障害になるようであれば、私は、それは、提案としては、取り下げますけれどもね。

【上村】いや、障害になるということ……。

【本田】皆さんが、A案とB案というところの対立に持ち込もうとされているので、そこは、僕は、A案とB案は対立はしませんよと。

ただ、A案を補足する意味で、僕はB案というところで、今までエンゲージメントチームが、別個にあったけれども、エンゲージ的な機能も多少入れつつ、実際のハンドリングは委託するのか、もしくは、JPNICに何とかお知恵をお借りするのは別として、イベントのところは、多少は、私も含めて、カバーをします。

プログラム委員会は、プログラムをつくり込むというところに、今までのように、待っていて、審査でというのではなくて、プログラム全体をつくり込むというところに、全体的に集中しましょうということなのです。

別に、私は、A案を否定するものでもないし、対立軸に持ち込もうとしているわけではないので、もし、何かそういう誤解が何か生じているのであれば、私は、B案といったものは、取り下げます。

大体、それをやっていることによって、プログラム委員会のほうが、また確認をしなければとか、何かとなると、どんどん、どんどん後ずらしになっていくことは事実なので……。

【上村】いや、そうしたところ……。

【本田】私がちゃんとそのリストを御提示できなかったことは、おわびしますが、今この時点において、リストとして出してくださいというところでは、リストは提示できていないので、それはおわびしますが、そこは、あれではないです。

で、その下の今、出していただきましたB案のほうは、堀田さんが、本田が言っていることは、こうじゃないかと言ったのは、まさにこういうことなので、別にこれ以上のことは、特にはないです。何かすごいリストをつくるようなほどのことはない。

【上村】それと、今日の議題としては、では、B案でいくのであれば……。どっちだ。ちなみに、堀田さんのA案と、私が先ほどチャットに書いたB案は、違っているかもしれませんが……。いや、違っていないか。同じか。同じですね。失礼しました。

そうすると、では、プログラム委員会、狭いミッションスコープで、プログラム委員会をするとすると、

それ以外のところをどうしましょうかという話を、この場で決めなくてもいいですけど、この後、決めることになりますけど、そういうことですか。そういうふうに議論を、今、整理なさっていますか。

【本田】なるほど。

【上村】そこは、今日、結論が出ないまでも、次回以降の会議で、では、その何とかが委員会を組織しなければなりませんねということを、申し送りの的に決めておかないと……。

【本田】ごめんなさい、何とかが委員会というのは？

【上村】何とかが委員会というのは、名前が分からないので、仮に何とかが委員会と言いましたけれども、そこをちゃんと整理しておかないと、宙に浮いたままで、先に進ま……。

【本田】うん、構わないですよ。私は、私の意見としては、構わないです。

だけど、ステークホルダー委員会、何とかが委員会はつくることはいいけれども、何とかが委員会は、20人、10人、15人と書いてあるけれども、ちなみに、それは、やってくれるという方がいるんですかね。ぜひとも、A案でやりたいという人がいるんでしょうか。

実積先生、ありがとうございました。

いや、人がいるんだったら、それは別にやってもいいんじゃないですか。私の所見で……。

【上村】そこは……。

【本田】私の個人的な意見ですけど、司会という立場。

【上村】そこは、そういう回答だと、議論が進まないと思いますけど、堀田さん……。

【本田】私は、できないと思うから、できないから、B案を出しただけであって、B案というのは、ある意味、縮小、シュリンクさせる手腕で、シュリンクさせる……。

【上村】ですから、それで行きましょうよということを提案する人がいないと、先に進めて……。

【本田】私は、これでいきましょうよと言っているんですけど、ごめんなさい、B案にしたい。

【上村】それで、口頭だけではなくて、もう少し形にしないと……。

【本田】そうですね、そうですね。はい、分かりました。

【上村】それで、ごめんなさい、B案にするんだったら、先ほどチャットにも書いたように、では、そういう前提のプログラム委員会に加わってくれる人ということで、少し人を増やさないといけないですよ

ね。

【本田】そうです。多少、細々したことを、はい。

【上村】そういうことを、今日の議長には仕切っていただきたいと思いました。

以上です。

【本田】そうですね。分かりました。

【前村】堀田さんの手が挙がっています。

【本田】失礼しました。堀田さん。

【堀田】AとBは、くくり方が違うだけで、一緒ですねということは、多分、そうなんですけど、本田さ

んがおっしゃるステークホルダーエンゲージメントをやってくれる人は、本当にいるんですかということ、Aにせよ、Bにせよ、一緒ですよ。

つまり、A案で、プログラム委員会に入った人が、全員、提案評価しかなしなつもりで入っている可能性が割に高く、だとすると、A案は成立するんですか、イコール、B案は成立するんですかと同じ問いを発していることになると思います。ということが言いたかったことです。

【本田】何かほかの御発言とかはありますか。

私のほうは、B案の提案者としての発言をさせていただきますけれども、別にいるんですかということ、何か挑発したくて言ったわけではなくて、そちらにステークホルダー委員会をつくると、また、そこに委員長を決めて、何人などということになるわけだから、そのところで、あくまで今回はプログラムをつくるということに集中をして、プログラムをつくる、プラス、そのプログラムに来てもらう。

飯田さんも、ありがとうございました。

そういうことであるので、この組織全体のエンゲージメントは、また別の話になりますので、たまたま、副次物として、ここのプログラムに来てもらったら、エンゲージされたということは、あり得ると思うんです。

だから、そこをあんまりすごく……。ここに書いていますけど、こんなにすごいタスクにするほど、エンゲージメントというよりも、単純にイベント運営候補ぐらいでいいと思うんです。

ただ、そのところで、プログラムをつくっていく中で、いや、俺は提案しかなしなよという方は、申し訳ないけど、昨年と同じことをやるんですかということ、私は言いたいです。

ただ審査をするだけ、ただと言ったら、あれですけども、来たもの、応募したものを審査するだけで、あとは、御自分で作り込みをしてください、イベントは、こちらでイベントをしますというと、多分、プログラムをつくり込むところが、すっぱり抜けてしまうんです。

つくり込むというのは、日本にIGFをこういうふうに広めていきたいという、我々の、何て言うのかな、一々、そのところの話は、本当はそこをしたいんですけど、そこができていないわけじゃないですか。そのところを、日本に広めたい、このIGFというものを、どういうふうに広めたいかということなので、こういう問題も、こういう問題も、こういう問題もあるよねというところを広めたい、そこを改善したいというところのものがあるわけで、その狙いというものへ到達していくようなプログラムにしないといけないですね。

だから、プログラムは、応募、来たものを、はい、どうぞというのは、それは成熟されたレベルでやることで、成熟されたスピーカーがいるとも限らないし、成熟されたプログラムをつくり込める、提案されてくるとも限らないので、その中で、ただ評価をするだけですということ、どうなのかなということは、私の意見です。

結局、評価だけして、あと、運営は何かよく分からないけれども……。

【上村】上村です。

すみません、その案に、私も反対しているわけではなくて、だったら、それでいいと思うんです。ただ、新しくプログラム委員会、お願いできませんかと声をかけるときに、あることをお願いすることになるのかを、やはり、ある程度、説明できるような形にしなければならないと思います。現状だと、本田さんの頭の中にしかないというと、ちょっと語弊がありますが、こういう形で、口頭で説明されるしかないので、ちょっとこう、新プログラム委員募集というものが、やりにくいと思うんです。

【本田】分かりました。分かりました。

【上村】それで、まずは、私は、B案にするなら、B案でするでもいいと思います。

多分、プログラム委員会の事前の打合せをしたときに、私も、本田さんには、多分、拡大する必要はあるでしょうねということは申し上げたと思うので、B案だったら、B案でいいと思うんですけど、いずれにしても、決めがなされていないことと、やった上でのマイルストーンとかが意識されていないので、ちょっと難しいと思っています。

【本田】分かりました。

上村先生、それは、やはり、全体会合で、延々と何かというよりも、それは、やはり、プログラム委員会のことは、プログラム委員会が決めるということは妥当だと、僕は思うんです。いかがですか。プログラム委員会のことを、ここで決めないと、駄目ですか。

【上村】それは違うと思います。

【本田】それは、どうして違うと思われる？

【上村】なぜというか、そういうものではないですか。

【本田】プログラム委員会の在り方を、ここで決めないと、駄目ですか。

【上村】こういうことにさせていただきますぐらいは、言っていたかしないと、駄目じゃないですか。委員会が、勝手に業務をつくったら、困りますよね。

【本田】うん。業務をつくる……。

物事を勝手に進めたら、駄目ですけども、要は、全体会合というか、チーム全体からのコンセンサスとしては、このイベントをやりましょうというところなので、イベントのことは、プログラム委員会にお任せしましょうというところをしていただかないと、逆に、できないと僕は思うんです。プログラム委員会の中のことを、全部決めて、報告して、こっちでもやっていったら、二重行政になりませんか。

【上村】いや、そういうものではないと思うんですけど。

【本田】プログラム委員会の在り方で、責任者を決めるかどうかぐらいは、確かにチーム会合で、全体会合で決めてもいいと思うんですけど、プログラム委員会の中のことの全部、これを、何をやって、かにをやって、やりません、やりませんか、言いません、やり……。

【上村】それは、逆ではないですか。むしろ、責任者は、委員会の中で決めるべきで、委員会が何をす

るのかは、親会が決めるとかではないですか。

【本田】なるほど。

【山崎】堀田さんの手が挙がっています。

【本田】堀田さん。

【堀田】上村さんがおっしゃるとおりだと思っていて、要は、案Aか案Bかは、活発化チームでないと、決められないですよ。

案Bがいいというのであれば、案Bがいいと思いますと、活発化チームが決めれば、プログラム委員会は、プログラムに全責任を持つ、ある意味、プログラムというか、イベントですよ。

【本田】うん、うん。

【堀田】全責任を持つということが、その場で決まるわけで、プログラム委員会に全責任を負わせるということは、上に決めてもらわないと、駄目です。

【本田】そうです。そうです。そうですよ。それは、そうです。それは、意見……。

【堀田】今日時点では、決まっていなくて……。

【本田】そうなんですよ。

【堀田】つまり、プログラム委員会の活動スコープが決まっていないから。

【本田】なるほど。

【堀田】ということ、上村さんもおっしゃっているんだと思います。

【本田】活動スコープね。

【堀田】責任スコープと言ってもいいです。

【本田】だから、始めてしまってから、後出しジャンケンで、仕事があれこれ増えても困るということは、確かにごもつともなんですけど、上村先生、失礼だけれども、逆に、イベント委員会、学会とかも運営されたとは思いますが、そういう御経験は、たくさんおありだから、分かると思いますけれども……。

【堀田】いや、仕事が増えるのはいいんですけど……。

【本田】ちょっと待ってください。言わせてください。

【堀田】責任や権限が増えることは、おかしいということだと思えます。

【本田】それは、ごもつともです。

ちょっと言わせてください。

僕は、別に自分の手柄ということをお願いわけでもないし、もちろん、高松さんとか、山崎さんと同じチームで、イベントをサブでやりましたけど、はっきり言って、去年のプログラム委員会では、情報が、何も集まっていなかったです。だって、それぞれの連絡先も分からないし、メールしても、とにかく返事が来ないし、誰がどうか、どれに、誰に連絡すると、基本的な情報も集まっていない。だから、結果的には、全部のことは、ほとんどイベント委員会をやったということになってしまっているんです。

もちろん、評価とか、そのプログラムづくりのところはされたので、それは、もちろん、その中で議論されたんだねというふうに推察はしますけど、プログラム委員会のそこまで細かいレポートが出てきたとも、僕は、記憶はあんまりない。

だから、イベントのほうを実際にやっていたのは、イベント運営がほとんど全部やっていたから、実質、それがプログラム委員会になってしまった、イベント委員会、丸ごとになってしまった。審査委員会というところにはなっていたのかもしれないけど。

どうされたいんですかね。審査だけにしたいよというなら、それは、それで構いませんけど。

【山崎】堀田さんの手が挙がっています。

【本田】はい、どうぞ。

【堀田】いや、審査だけじゃ、駄目だよねということは、多分、今年のプログラム委員会は、審査よりも広がっていると思うんですけども、もともと、案Aにしても、やらなければいけないことは、広がっていると思うんです。

去年は審査をやるというプログラム委員会だったので、それ以上はやらなかった。そのために、うまくいかなかったんだから、何とかしなければということは、本田さんがおっしゃるとおりだと思います。ただ、それをプログラム委員会というところに、全部押し込めるということがいいのか、もしくは、もう少し構造的にしたほうがいいのかということは、案A、案Bで決まっていなくていいですねと言っているだけで……。

【本田】それで、要するに、仕事が、雪だるま式に増えることは困るよねという話ですよ。責任問題……。

【堀田】そうですね。仕事が増えたら、できなくなる以上に、権限と責任がないまま、走り出してしまうということになってしまいますよね。だから、やはり、定義は、上からしないと駄目だと思うんです。

【本田】なるほどね。

【堀田】みんながいい人で、みんながボランティアでやっていたら、全部ごみがなくなりましたというわけには、多分、いかないです。

【本田】なるほど。

【堀田】いや、そんな難しいことを言っていないです。だから、AかBかを早く決めましょうよ、多分、上村さんは、そう、おっしゃっているだけだと思うんですけど……。

【本田】私は別にA案に反対しているわけではないけど、この現状で……。A案のテキストに戻っていただけですか。A案にするのはいいんだけど、ここで、俺はエンゲージをやるからさという人が出てきているならいいし、イベントはよし、委託しようなどというふうになっているなら、それは、別にA案でいいんじゃないですか。

でも、A案が、実質的に、誰も、絶対、A案を強力にしようという人がいないから、実質的には、別に……。

逆に、プログラム委員会がやらないということ、スコープを狭めるとすると、残りのことは、誰がやるんですか、活発化チームがやるか、名もなき有志がやるか、どっちかになるんですね。もしくは、そのところは、細かい事務は委託します、どこかに委託します。JPNICさん、お金を下さいなどという話になっていくんじゃないですか。

というふうに、大ざっぱにいくと、そういうふうになっていくのかなと、私は……。

【上村】上村です。度々、すみません。よろしいでしょうか。

人がいないという点については、先ほど堀田さんおっしゃったように、Aでも、Bでも同じだと思います。それから……。

【本田】いや、いや、いや、A案でいく場合に、委員会をつくるんだったら、委員会、それぞれ委員長も必要になってくるのではないですか。

【上村】もちろん、そういうポストの分、さらにハードルが上がるかもしれませんが、B案でも、それを担ってくれる人が必要だということは、共通ではありませんかということは、先ほど堀田さんがおっしゃったとおりでと思うんです。

それで、現状、今、どういう流れになっているかという、プログラム委員会の立ち上げのときに、B案のようなアイデアを本田さんがお持ちだったので、そこを少しかみ砕いて、先ほど言ったように、新しく声かけできるようなものも必要だし、もう少しこうイメージを膨らませてもらえませんかということ、を投げているわけです。

ですから、どちらかという、B案が視野に入っているけれども、その全貌が分からないので、先に進めないということかもしれません。

【本田】なるほどね。私が出さないから、悪いといえば、確かにそれはそうなんですけど、私は、別にそんなにいろいろ出すものは……。

【上村】ごめんなさい。何が言いたかったかと言うと、本田さんについて、ネガティブなことを言うことが目的ではなくて、それが出れば、こういう形でプログラム委員会を改めて組織しましょうよということが、この活発化チームの会合で、合意が取れたということです。

ただ、それがないので、その議論が先に進まないまま、止まってしまっているという現状なので、もし、進めるんだしたら、やはり、そういう形で、この場が出さないと、このままなのか……。

【本田】分かりました。

まず、文字で読めるものということですので、それを読めるような、それなりのもの、要は、リストのものと、あと説明の分と2枚物ぐらいのものでいいでしょうか。それを用意して……。

【上村】最も単純にやると、堀田さんの今のメールの上のほうにありましたけど、前回、これこれ委員会、これこれ委員会としてやってきたものを、プログラム委員会に集約するみたいなことだけでもいいのかもしれない。

【本田】基本的には、メールの中で返信もしていますけれども、いろいろ集約するだけであって、その

仕事を増やすというよりも、できることだけ、エッセンスのみを絞って、やりましょうということが、私の意見なので。

ただ、その中で、今、言ったエンゲージメントというのは、例えば、新しい組織の何かの分野について研究している人、新しい人を見つけてきて、その人をプログラムに取り込むとか、プログラムの登壇者として取り込むとか、そういう部分を指して、限定的なエンゲージメントと言っているだけであって、何かその組織、丸ごと、連れてくるような話とか、大きな話を、ここでやるという話では、もちろん、ないということである。

【上村】ごめんなさい。そういう戦略はとても大切だと思うんですけど、例えば、プログラム委員会はエンゲージメントもやりますということを聞いた人が、そのような軽い、ライトウエートなエンゲージメントをイメージしない可能性もあるわけです。

ですから……。

【本田】そこを明文化したいということですね。

【上村】ある程度はないと……。

【本田】分かりました。

【上村】私も、誰も、次の人に声をかけられないのではないのでしょうか。

【本田】分かりました。

これは、私の意見ですけど、皆さんが、皆さん、同じ仕事をしないといけないということはありませんし、できる範囲のところ、もうここからここまでしか、私はできませんというところ、いいと思うのでね。

それで、まとまらなくて、浮いた仕事はどうするのかというと、困るけれども、そこをある程度、拾っていく部分もあるだろうし、逆に、できなかったものは、もうこれはできないと、諦めるしかない部分も、現状ではあるのですね。人手不足、お金不足というところなので、そこをくどくどと言うつもりはないです。

だから、私は、A案はできるんですかと、実現性があるなら、それはA案で全然構わないですというところ、です。

ただ、今、現状を見る中で、NRI組織化は、前村さんと主導して下さっていますけれども、それ以外のイベントのこの3つ、4つというところについては、特に立ち上がりがないので、そうすると、必然的にA案でやってもいいけど、形骸的に空席のままやるか、どっちかでしょうということになるんだと思うんですね。

別に批判がしたくて、言っているわけではなくて、現実論として、そうだとしたことだと思いますけど。

【前村】前村です。

プログラム委員会は、プログラムの公募をしたいなというところで、早めに活動をし始める必要があって、ほかのところに関しては、秋イベントを実現するためのほかの機能に関しては、ちょっと着手が遅

くはなっているということなんだろうと思うんです。

それで、ステークホルダーエンゲージメント委員会とか、イベント委員会とかというふうに言い始めると、想像よりも、少し大規模な印象がする、大げさなというのか、そんな感じにも見えるんです。とにかく、この辺をどういうふうに……。ちょっと、ごめんなさい、手元で変なことが起こっているんで、すみません。今、発言、チャイします。すみません。離席します。

【本田】なるほどね。

ここにあるからといって、今すぐないから、できないでしょうというわけでもないんで、時間さえかければ、ほかの3つの委員会ができる可能性はありますよね。

【堀田】堀田です。いいですか。

【本田】どうぞ。

【堀田】いや、私、結果としては、ほかの委員会を立ち上げるコストを考えると、B案でいいと思っています。

だから、上村さんがおっしゃっていたように、じゃあ、今のプログラム委員会に、プラス、何が必要になるんですかということは、やはり、知りたいです。

【本田】私の提案のほうで、補足として、これとこれじゃないですかねというところを、リストを、とにかく、多分、これとこれが追加される、旧来のプログラム委員会に追加される場所ではないでしょうかというところ。

【堀田】いいです。

【本田】そんなところで、いいですね。何かすごい資料を作らなくてもね。

【堀田】私はいいいと思います。

【本田】分かりました。そうします。

そこで、これ以上、あまり議論しても、多分、人数もどんどん減ってきていってしまう一方なので、これぐらいにしたいと思います。

時間の兼ね合いもありまして、申し訳ありませんが、テーマを決めることは、今日は、相なりませんでした。

テーマについては、最終的に、3つに絞っていただいたんでしたよね。

山崎さん、テーマのところの資料は、今、見せるだけ、見せられますか。

ごめんなさい、11か。それをカテゴライズしていただいたんですよね。

【山崎】ただ、これは古くて、もっと絞り込めたはずなんですけど、それが見つかっておらず。

【本田】なるほどね。

【山崎】メーリングリストの何番でしたか。

【本田】いや、分かりません。ごめんなさい、私は、そこは準備不足でした。テーマというところを、上村先生にやってもらっただけ？あれ？と思って、そのままにしてしまったので、ごめんなさい。

【上村】メーリングリストだと、3月31日の7時12分に入れたものが、割とコンパクトかもしれません。よかったら、私が出しますけど。

【本田】ちょっと出していただけますか。

【上村】はい。

【本田】今日は、もう議論はしませんが、見るだけ、見て、確認を。

【上村】議論しないということは、先ほどチャットにも書きましたが、募集開始は、大幅に遅れるということによろしいですね。

【本田】いや、議論をしたければ、別にどうしてもしたいということ……。

【上村】したければではなくて、そういうことを言っているのではなくて、当然の帰結として、そうなり……。

【本田】やむを得ないですよ。それは、やむを得ないですよ。

今、ここにあるように、3つは、どうして絞られたか、はっきりしませんが、僕が言ったんだけど、細かいところは……。

【上村】すみません、テーマについて、今日、議論しないのであれば、では、メーリングリストの505番のメッセージあたりを御覧くださいということではいかがでしょうか。

【本田】はい。ということですが。

【上村】あと、それから、テーマは、もう私の手は離れていると理解しているので、会議の場であれば、本田さんが仕切るべきだし……。

【本田】分かりました。505番を……。

【上村】いや、ごめんなさい、メーリングリスト上であれば、私は、前村さんが仕切るべきかとちょっと思っていたんですけど、もしかしたら、違うんですか。その辺も含めて……。

【本田】前村さん、テーマ？テーマは、前村さん？

【前村】メーリングリストを、私が管理をしているということでもないと思ったことが、何も言わなかったところで、議論構築に、全然、構築できていなくてごめんなさいなんですけど、どうしましょかね。

【上村】いずれにしても、今日は、時間切れですから、メーリングリストで、最終案を1つ選んで、そこからラストコールするしかないんじゃないでしょうか。

【前村】そうですね。はい。

【本田】ごめんなさい、テーマというのは、大テーマですか。

【上村】はい、全体テーマです。

【本田】全体テーマを決めないといけないんですか。

【上村】そういう話になりました。

【本田】何か、私の理解がそこに追いついていなかったんで、すみません。

IGFみたいに、5つぐらいカテゴリーを出して、どれかに当てはまるものをお願いしますというものでは

ないんですね。

【上村】 それもあるかもしれませんが、それではなくて、オーバーアーチング・テーマです。

【本田】 そうすると、玉虫色みたいなテーマでないと……。

【上村】 ですから、そういう趣旨で、狭くなり過ぎず、広くなり過ぎず、だけど、あれ、これ何するんだらうという興味を引くようなものを、私が、コピーライティングしたんです。

【本田】 このテーマに沿ったものを、応募してくださいということですよね。

【上村】 優先しますということですけどね。

【前村】 さっきのテーマのリストを見せてもらえるといいんですけどね。

【本田】 11個あるほうですか。

【前村】 はい、そうです。

【本田】 山崎さん、11個あるほうを見せてください。

【前村】 今日は、これ以降、時間を延ばすべきではないと思うのですが……。

【本田】 もう延ばせない。

【前村】 3週間後の次の会合を待たずとも、メーリングリスト上で、議論を収束させて、ラストコールして、その時点で、募集をかけられるという進行をトライすることは、トライできると思います。

【本田】 前村さん、この件は、主導されていませんか。

【前村】 私は、プログラムや会合のほうに関しては、あんまり手も口も出せていなかったの、眺めているだけです。

【本田】 そこは、あれですよ。

上村先生のほうも御負担をおかけしたところもあるんで、3つに絞ってくださいという話になっても、上村さんが絞ったら、僕は、何で3つに絞ったんでしたっけ？と、訳の分からないことを言ってしまったので、本当に申し訳ありませんでした。

【上村】 そんなことにはならないですよ。もう前村さんというか、私の手を離れたモデレーションをしてくださいと思っただけなんです。

【本田】 はい、分かりました。

そうですね、はい。

【上村】 大事なことを決められないので、先ほど前村さんがおっしゃったような進め方がよいのではないのでしょうか。

【本田】 メーリングリストですね。

11はちょっと多いんですけど、私の意見では、別に必ずしも1個にしないといけないのかなという気はしました。3個か、4個ぐらいあって、その中で、どれかが引っかけたら、それでいいじゃないですかという感じでいいと思っていたんです。

一応、1か、2か、3の中で、1つにするんでしたか。話とすると、そういう話になったんでしたか。

【上村】ごめんなさい、そういう質問だとすると、もうノーコメントです。

【本田】何か、そこは、私がついていけていなかっただけで、上村先生に3つぐらい絞ってくださいと、誰かが言ったので、それで、絞りましょうという話で、上村先生に頑張っていたのに、私が、あれ？何でこの3つなんですかと、何か変なとんちんかんなことを聞いたから、悪かったんでしょうけど、そういう意味では……。

確認ですが、議論としては、議論の流れとして、この3つの中の1つを、全体テーマにするってことですよ。だから、今日、決まりますかというところを、最初から懸念されていたんですよ。そこだけ、確認させていただけますか。

もう14人しかいないので、ここで決めることは、適当ではないと思うんですけども、上村先生、いかがでしょうか。

【上村】ごめんなさい、質問は何でしたか。

【本田】この3つに絞っていただいた中で、さらに、この中の1つにするということが、最終の決議だったんですよという確認です。

【上村】全体テーマを決めましょうという話になったので、全体テーマは、1つ……。そのときに議論になっていた全体テーマというのは、1つの全体テーマでしたから、それを、どうしましょうかという話をしてきました。

【本田】私は、ここではお答えを申し上げられないんですけど。

【上村】すみません、募集要項についても、1点、相談したいなと思ったことがあったんですけど、それを無視するんだったら、テーマだけが決まれば、募集開始ができます。

【本田】ちなみに、御懸念は何でしょうか。

【上村】英語です。

【本田】IGF-Japanか、Japan IGF？

【上村】違います。違います。英語しか分からない人が応募できるようにするか、どうか。

【本田】それをやってしまうと、英語しか分からないのはいいんですけど、日本語訳もつけてくださいよと言えばいいんじゃないですか。

これは、私の意見で、本当にここで議論というよりも、フリーな話ですけど、別に英語が来ても構わないけど、私たち、英語はあんまり得意じゃないから、プログラム委員会、みんな英語がしゃべればいけれども……。

【上村】だから、そういう話になってしまいますけど、どうしようねということですよ。

【本田】だから、準備段階は、少なくとも日本語で、もしくは、通訳がついてくれるなら、何人が来てもいいしというところではあるんじゃないですか。

【上村】ですから、今の表現は、限りなくこれに近い表現になっているんですけど、だけど、その点について、もしかすると、コメントを下さった方との間で、意見の相違があるかもしれないなと思ったの

で、確認したほうがよいと思った次第です。

【本田】はい、分かりました。それも、今、ここで議論ができない状況ですので、これは、申し訳ないですけど、御理解……。

【上村】そうですね。これをペンディングするということは、さらに、募集開始を延ばしますかということになるわけです。

【本田】日本語云々のところは、後出しでもいけないんですかね。言語のところなんで、確かに重要は重要ですけども、それを絶対に入れないと、募集要項は出せないというものではない。

【上村】今日は決められませんけど、後出しということは、結局、いつかはやらなければならないことなので、それだと、やりにくくないでしょうか。

【本田】申し訳ありませんが、時間切れになりましたので。

テーマについては、申し訳ないですが、決められなかったので、メーリングリストで、1つに決めるということとする。

ToDoの確認は、今、見たとおりです。

ラストコールは、3案のうちの1番です。「IGF 2023日本開催を見据えて」が選ばれました。

テーマについては、今お話ししたとおりで、A案、B案については、B案を主体とするが、プログラム委員会の中のスコープをリストとして、提供する。追加タスクの案を、メールで議論するというか、メールで話すということになりました。決まっていないというよりも、Bにする方向性と決まったと理解しています。

もう一つ、何ですか。

NRI枠については、前村さんから報告があって、引き続き、議論する。ML上で、メールとドキュメント上で、議論することとなりました。

【前村】次回5月9日会合で、方針を採択するべく、オンラインで議論を進める。

【本田】ありがとうございます。

けつかつちんということです。きちっと出した上でやりましょうということですね。ありがとうございます。

では、次回……。

【山崎】すみません、山崎です。

最初のイベント名称は、先ほど決めたとおっしゃいましたが、メーリングリストでラストコールにかけるんですよ。

【本田】そうです。これを、我々の総意というか、大まかなコンセンサスとしましたが、これを、最終的に異議がないか、全体の大きなあれがないか、どうか、ラストコールにかけますということです。新たには投票はしません。

【山崎】はい。

投票と書くよりも、会合に参加した人のコンセンサスも……。

【本田】会場参加者というか……。

【山崎】1番だったという感じですかね。

【前村】そうですね。

【本田】はい。そうです。大まかにそうだったということです。ほぼ60%です。

最後、次回の会合ですが、今、前村さんも触れてくださいましたが、ちょっと下へ行っていただきますか、5月9日月曜日ということでもよろしいでしょうか。連休明け、いきなりですけれども、連休が明けた感じで、スタートダッシュしていきたいと思いますので、5月9日、また同じお時間、5時ですね。

今回、反省として、事前準備はしたものの、それでも、なお、やはり不足していた部分があったこと、もしくは議事をうまく指揮できなかったというところについては、皆さんにおわびしたいと思います。申し訳ございません。

そのほか、何かお話になっておきたいこと、最後に、これはといった点がありましたら、手短かに御発言……。

【堀田】堀田です。

【本田】どうぞ。

【堀田】結局、議長、司会問題は、何も結論なしですね。

【本田】いや、結論というか、チャーターを見返したんで、チャーターの中で、ここは、決めてありましたよねということを確認しました。

ただ、チャーター自体を変えたとしたら、1年ごとに変えるというか、見直すとは書いてあるので、確かにこことかを見直すのは構わんよねという、それはよいことですねという話になったと理解しています。今日の時点では、何も決めていません。

【堀田】そうですね。

【本田】はい、そうです。

【堀田】だから、議長を置くべきだということに対しては、特に議論はされていないと？

【本田】議長を置くべきというふうには、チャーターに書いていないんで、ラフコンセンサスを優位にすると書いてあるので、みんなが決めた、みんなのラフなコンセンサスを、議長がひっくり返すことができるような話ではないので、議長を置くという。

【堀田】いや、いや、いや、そういう話をしているのではなくて、司会というのは、会の司会では、駄目で、全体のスケジュールをちゃんと追いつつ、物を決めていくということをコントロールできる議長が要りますねという話だったと思うんです。

【本田】なるほど。要するに、プロジェクト全体のリーダーということですね。

【堀田】そう。活発化チームの議長、チェアです。というのが、多分……。

【本田】どうなんでしょうね。できる……。

【堀田】小畑さんがおっしゃっていることも、私が言っていることも、そういうことで、毎回のミーティングで決めるべきことが、きち、きち、決まっていていないから、3週間遅れますね、6週間遅れますねということが起こっている、一つの原因でもあるように思うんです。

【本田】いや、私が……。

【堀田】ですから、チャーターがこうなっているから、議長が決められないんだということは、考え方として、間違っている気がします。

【本田】いや、いや、決められないんだとは言っていないんです。そういうふう書いてあるねというところなので、チャーターを変えたとしたら、チャーターを変える議論をしましょうというところなんです。私は、別に、それが、今ある現状のままでいいとは、一言も言っていません。

【堀田】ということで、今日は、議論しなかったんですね。

【本田】いや、それは、時間切れだったので、申し訳ない。それは、そこまで……。それ以外に、もう1回、メインテーマを決めないといけない。その話に戻ったので、1回それをさらってから、そっちに戻ったので、そこを前後したので、行ったり来たりしたように見えたら、申し訳ありません。

【堀田】私から見ると、中途半端で、議論が始まったまま、別の議論に入ってしまったたというふうに見えました。私が思っただけだったんです。

【本田】逆に、何もしなかったほうが、よかったですか。

【堀田】違います。決めるべきだったと思います。

【本田】正直言って、全部を全部、決めなかったら、2時間では終わらないということは、明らかにそうなんです。

【堀田】だから、4時間かかるということは、議長にしかできないから、やはり、議長というのは要るんだと思います。

【本田】結果的に、そういうふうを示してきますよね。事実が示してきますよね。

【堀田】うん。

【本田】もういいですよ、議論はいいですから、ここで決めましょうという話。時間は、もうけつ的小伙伴、こう決しましょうというふうに言わないと、何でもかんでも、はい、投票をやりましょうか、はい、何をやりましょうか、皆さんの意見は、御意見、御意見はと、全部聞いていたら、全部、聞いていたら、切りがないので、それは確かにそのとおりだと思います。

【堀田】本田さんがおっしゃるとおりだと思います。

【本田】一番、それは、僕は分かります。僕が議長だったら、全部、決めてしまいますからね。もういいですよ、前村さん、ちょっと決めましょうと、そういうふうに言ってしまいます。前村さんの名前を出して、申し訳ないけれども、そういうことです。

だけど、全部をそういうふう決めて、それがいいのか、どうかはよく分からないので、決めるのはいいことですが、決めるために、議長が要るのか、どうかということは、まだ、私はよく分からないん

です。

【前村】前村です。

チャーターを持ち出したことは、チャーターに物事が決めてあるから、それを変えるんだったら、変えるべきだということを言ったつもりなんですよね。

それで、メーリングリストで、最近、起こっていたことは、チャーターを書いたときには、司会として、フラットな体制がよろしかろうというふうに言って、やってきたんだけど、結果的に、それはワークしていないではないかというふうな御指摘をいただいて、であれば、議長職を置くべきではなからうかというふうな提起が、堀田さんや小畑さんからなされたんだらうというふうに思っている。

であれば、議長を決めて、議長に権能をこれくらい与えてというふうなラフな……。ラフなというか、設計ができれば、そうすれば、リチャーターすることで、それは実装していくこともできるよなというふうなことを進めていくということが、もしこれがコンセンサスなんであれば、進めていくということが必要であらうと思うんです。

ただ、そうすると……。ただと言いましたけど、そうすると、その議長というのは、かなりの負担というのか、リソースを割いて、そういうふうな計画やマネジメントに力を費やしていかなければいけないので、相当難しい仕事になると思うんですけれども、一方で、進捗させていかないと、2023年はすぐに来るというふうなことでもあるので、それは必要なんではないのかと私も思っております。

今まで司会を努めてきた立場で言うと、司会という枠で、議論がちゃんと進捗していくように、うまくできなかったなというふうに反省しております。

なので、議長を決めるような方向で議論を進めるというのであれば、それは、次回会合を照準にして、何らか進めるような仕組みをつくっておいたほうがいいんじゃないかと思いました。

【本田】前村さん、ありがとうございます。

私は、前村さんがやっていらっしゃることは、素晴らしい働きだなと思って見ていたんですけど、やはり前村さんがいろいろしゃべりたいこともあるから。

僕も、何だかんだ、人の事を言っておきながら、自分の司会で、しゃべってしまって、実績先生に、司会と議論しているのか、何なのかと言われてしまったんだけど、それは、そういうつもりはなかったんですけども、やはり、そうになってしまう。

やはり、そこは淡々とやっていくところが必要な面もあり、でも、全体のコーディネーションとかファシリテーションをしていく必要もあるので、そういうスキルはすごい難しいところではあるんです。私の意見では、それを1人の議長に委ねるということは、どうなのかなという気はします。

やってみれば、難しさが分かるので、ただ時間を空費して、無駄に浪費して、あれも決めなかったですか、あれも決めなかったですかと言われると、なかなか大変だなというところは……。別になすりつけるわけでもない、自分の責任を棚に置くつもりも全くありませんけれども、そういうことの難しさがあるということは、前村さんもおっしゃったとおりのことです。

【前村】なので、時間も限られている以上というか、これだけ時間を費やしてしまったところで、もう本当にあれなんですけれども、この時間で進捗をしていくためには、相当なリソースの確保をした上で、どなたかが議長を引き受けて、その上で、議事を差し出してくるプログラム委員会とか、イベントとか、あるいは組織化などという提案者と共同して、3週間に1度の会合で、かちかち進んでいくようにやっていくということ、決めなければいけないんだと思うんです。

どうでしょうか。どういうふうに進めるといいでしょうか。

【本田】はっきり言って、議論をここでやろうとするから、コストが高いんです。文字でやればいいことを、私も人のことを全然言えなくて、資料だって、文字を作ればいいことを、何か言葉で言おうとするから、おかしくなるので、文字でやって……。

【前村】そうなんです。

【本田】文字でやって、メールで決めればいいものを、全部ここで決めようとするから、それはおかしいんです。

だから、私は、1回、投票に回しませんかと言ったことは、そういう意味で、だから、いろいろな人がMLメンバーにいるんだから、みんな、MLを主体とすればいいんで。

ただ、ここは、全体の流れの確認とか、それぐらいにして、あと、もっと本当はこういう組織化よりも、僕の意見は、最近のウクライナはどうなんだとか、また、中国がひどいぞとか、日本の国内がどうだとか、そういう話のホットトピックをざっくりやるというほうが、僕は、本当はこっちのチーム会合のほうが、昔のIGCGをイメージしているわけではないんですけれども、本当はそっちのほうが、もうちょっと主催なのかなと思っているんです。

もちろん、議論するのはいいんですけど、議論をして、口頭でやるということは、すごいコストかかるので、別に、お互い、何か取締役会でも何でもなし、お互いに縛りがあるわけでもだから、言いたい放題、自由なことを言って、はい、終わりとなってしまう可能性があるんです。

それは、やはり、よくないと思うので、ある程度、文字になったものの中を拾って、確認をしていくという作業のほうが、僕はいいのかなと思っていて、MLの中で、上村先生などがやってくださったことも、今回、拾いながらやって、できたところは、よかったかなと思います。

これは、アディショナルなところになりますので、これぐらいにしたいと思います。

では、よろしいでしょうか。

長丁場で、1時間延長ということで、過去にない延長になってしまいましたが、どうもありがとうございました。

山崎さん、記録のほうは、また公表していただけるということでよろしいですか。

【山崎】はい、決まったことは、今、確認しましたので、これは速やかにMLに流します。

別途、議事録は、通常のやり方で、発言録ですけれども、流すというふうにしたいと思います。

【本田】そうですね。なるべく早く議録を流せるように、15回のものも、なるべく早く流せるようにお

願いをします。理想は、次のところまでには、必ずこのものが出るということですね。ありがとうございます。

では、これで、もう参加者もかなり減ってきているところではありますが、閉めとしたいと思います。

皆さん、遅くなりましたが、どうもありがとうございました。

御発言、十分でなかったところはおわびします。ありがとうございました。どうもありがとうございます。

【堀田】ありがとうございました。

【前村】ありがとうございました。

【上村】失礼します。

【本田】失礼します。

重ね重ねありがとうございました。失礼します。

——了——